

共通科目カリキュラムマップ

Ⅰ 共通科目の到達目標(DP:ディプロマポリシー)						
①キリスト教精神に基づく人間理解を深め、生き方など現実の問題等に結び付けて考える力						
②社会人に必要な基本的知識や技能、行動様式、コミュニケーション能力、就業力等を身につけて社会性の基盤を培い、これを社会の発展等に活用できる力						
③専門的な学習の基盤となる幅広い学問的知識や技能を身につけて、総合的に判断し、主体的に行動できる力						
Ⅱ 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例				
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力				
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力				
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力				
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力				
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力				
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力				
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号			
			上段：到達目標(DP)			
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力			
			①	②	③	④⑤⑥
キリスト教科目	聖書の世界	旧約聖書の歴史や物語を知り、異文化間に生きる国際人としての基礎的教養を身につける。また、新約聖書の物語やイエスの教えを通じてキリスト教の愛の教えを本質的な点で理解し、これによりキリスト教主義に立つ梅花女子大学での学びをより豊かなものとする。	○	○	○	
			○		○	
	澤山保羅と建学の精神	キリスト教についての知識を得ることで、国際人としての教養を身につける。また、キリスト教一般の中で本学創立者と建学の精神とがどのような位置にあるのかを理解することで、この大学で学ぶための基本的な姿勢と、梅花女子大学生としてのアイデンティティとを養う。	○	○	○	
			○		○	○
キャリア基礎科目	初年次セミナー	話を聞くだけでなく、テキストを読む、意見を述べる、話し合う、発表する、メモを取る、情報を整理する、意見を書く、といったことができるようになるり、さらに共同作業で初歩的なプレゼンテーションができるようになることが目標である。		○		
				○	○	
	問題発見解決セミナーⅠ	①マインドマップやマトリックス、包含図などを使いこなして分析したり、ひとと議論できるようになること、②議論の結果をまとめて人前でプレゼンテーションできるようになることが目標である。		○		
				○	○	
	問題発見・解決セミナーⅡ	身近なところにある問題を発見する経験を積み、テーマが決まったら、到達目標を定め企画書にまとめる力をつける。さらに情報の整理とディスカッション能力、グループメンバーの役割分担と協力体制の確立、プレゼンテーション能力のスキルアップをめざす。		○	○	
				○	○	
	キャリアデザイン	①社会で求められる基礎的な数的処理能力、言語能力を身につける②自分を知り、社会で求められる力を知る③様々なワークスタイルを知る④マナーを身につけ就職活動の流れを知る⑤目標を実行に移せる。		○		
			○	○	○	
	美しい日本語(話し方)	美しい日本語の発声発音の理解と敬語表現を学び、伝わりやすくより女性らしいおしゃれな話し方を身につける。		○		
			○	○	○	
	美しい日本語(書き方)	読み手にとって、わかりやすい日本語の文章を書けるようになることが目標である。		○		
			○	○	○	
	エレガンスセミナー	①社会人にふさわしい言葉遣い、ビジネスマナーを身につけること②外国人との交流の場において相互に尊重するマインドと知識を身につける	○	○	○	
			○	○	○	
	ナレッジイノベーション論	自分とは異なる世界があることを知り、多様な仕事や生き方に触れ、今後の人生設計のヒントを掴むこと。社会、家庭、仕事、様々な分野において	○	○	○	
			○	○	○	
	実践・産学連携演習	実社会で活用するための基本的知識やスキルを実際の産学連携事業の経験を通じて学ぶ事が目標である。	○	○	○	
			○	○	○	
	情報処理演習Ⅰ	必要な情報を的確に伝達するための文章作成の方法を習得するとともに、その内容をより分かりやすくするための画像などの活用方法を習得		○		
			○	○	○	
	情報処理演習Ⅱ	必要な数値を正確に算出するための表計算の方法を習得するとともに、その内容を「見える化」するためのグラフなどの活用方法を習得する。		○		
			○	○	○	

グローバルコミュニケーション科目	英語会話Ⅰ	TOEIC 300～400取得可能な英語力を目指す。 TOEIC Part1写真描写問題のように、写真や絵を見て状況を説明出来る。 英語力の取得を目指す。		○				
						○		○
	英語会話Ⅱ	TOEIC400～450取得可能な英語力を目指す。 TOEIC Part2応答問題のように、質問に対して会話のテンポを落とす事なく、すぐに返答できる英語力の取得を目指す。		○				
						○		○
	英語会話Ⅲ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上することを目標とする。 理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		○				
						○		○
	英語会話Ⅳ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上することを目標とする。 理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		○				
						○		○
教養科目	健康とスポーツ(実技)	心身ともに健康な活力を培うために、人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識について、実践研究をとおして修得することを目標とする。 技術向上よりもいろいろな身体活動を体験する楽しみから、人とのコミュニケーションを図る。		○				
			○	○	○	○	○	
	健康とスポーツ(理論)	自分自身にあったスポーツ活動についてプログラミングができるようになることを目標とする。		○				
			○	○	○	○	○	
	フランス語会話	①基礎的なフランス語の文法事項が理解できる。②簡単な表現が理解できる。③実用フランス語5級レベルの簡単で実用的なフランス語を話すことができる。		○				
					○	○		○
	中国語会話	中国語の正確な発音を身に着け、基本文法を理解し、簡単な会話ができる。		○				
			○	○		○		○
	ハングル講座	韓国語で自己紹介ができる事を目指します。		○				
			○			○		○
	手話入門	挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話が手話出来るように目指す。この学習を通して、聴覚障害の障害理解をし、どのような配慮をしたら良い		○				
			○	○		○	○	○
	女性と法	現代社会における女性に対する様々な人権侵害に気づき、それらを身近な問題として考え、多角的に分析する力を身につける。さらに諸問題の改善策、解決策を考える力を養う。		○	○			
			○	○	○	○		○
	美しい日本語(硬筆入門)	文字のもつ美を理論的にまた技術的に追求し、実用的な書写技術の向上をはかる。		○				
			○	○	○	○		○
	図書館の文化史	①日本及び世界の図書館の歴史と発展について理解を深める。②紙以前の記録メディアの誕生から近代のメディアに至る発展の過程を学び、理解する。③図書館と社会のかかわりについて知り、図書館の役割を考えるようになる。		○				
						○		
	日本国憲法	①憲法が保障する基本的人権の意味や意義を理解する。②各種の人権問題に関心を持ち、理解に努める。③各種の人権問題の解決方法を模		○	○			
			○	○	○	○		○
	人間と法(法学)	裁判での争点を理解し、社会における具体的な「法」の役割に気づくとともに、自ら考える力を身につけることを目標とする。		○	○			
			○	○	○	○		○
	政治学	①新聞やテレビなどマスメディアで報道される政治に関するニュースの内容が大まかに理解でき、それらについて簡単な説明可能な知識を持つこと。②社会問題や政治に関して、その背景や歴史的経緯などを踏まえたうえで、自分自身の意見を持てるようになること。③採用試験などにおいて必要な、政治学を含む社会科学に関する		○				
			○	○	○			
	生物・化学の基礎	①生命体を構成する物質を列挙し説明できる。②細胞や遺伝子の構造と機能を説明できる③細胞の増殖と分化、細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。④生殖と発生、成長と老化を説明できる。⑤個体の維持について例をあげて説明でき		○				
				○	○			
	情報科学	情報という概念を知り、それを利用できるコンピュータの基礎を理解する。そして、それを理解した上で、安全に利用し、活用できるようになることが目標である。		○	○			
				○	○	○		○
	アニマルセラピー入門	アニマルセラピーに対して自分自身の意見、立場を表明できるようになることが目標である。		○	○			
			○	○	○	○		
	和装で学ぶ日本の歴史	実技目標は着物(浴衣)を自分で着ることができ、その姿で外出ができることです。 講義目標は和装に関する基本的な知識や日本文化としての歴史を習得することです。		○	○			
			○			○		○

共通科目カリキュラムマップ

I 共通科目の到達目標(DP:ディプロマポリシー)						
①キリスト教精神に基づく人間理解を深め、生き方など現実の問題等に結び付けて考える力						
②社会人に必要な基本的知識や技能、行動様式、コミュニケーション能力、就業力等を身につけて社会性の基盤を培い、これを社会の発展等に活用できる力						
③専門的な学習の基盤となる幅広い学問的知識や技能を身につけて、総合的に判断し、主体的に行動できる力						
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例				
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力				
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力				
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力				
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力				
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力				
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力				
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号			
			上段:到達目標(DP)			
			下段:梅花女子大学で身につける6つの力			
			①	②	③	④ ⑤ ⑥
副 専 攻 科 目	メディカルヨガⅠ	メディカルヨガインストラクターとしてレッスンを提供できるようになる 楽しんでヨガを学ぶ		○		
			○			○ ○
	メディカルヨガⅡ	メディカルヨガインストラクターとしてレッスンを提供できるようになる 楽しんでヨガを学ぶ		○		
			○			○ ○
	メディカルピラティスⅠ	クライアントの状態に応じてプログラムを組めるようになる		○		
			○			○ ○
	メディカルピラティスⅡ	クライアントの状態に応じてプログラムを組めるようになる		○		
			○			○ ○
	メディカルアロマセラピー概論	統合医学を理解し、個別に異なる健康への捉え方や価値観、概念、意識などを考察できるようになる。アロマセラピーとハーブ療法を通じて、自らの健康に対する意識を高め、社会人として有用で豊かな感性を磨き、今後の人生において生かすことができる。		○		
			○			○ ○
	社会調査入門	社会調査の結果を読むための知識を習得し、実際に調査を実施する際のポイントをつかむ。	○	○	○	
				○	○	○ ○
	社会調査法	量的調査研究の一連の流れを理解するとともに、調査結果などの内容についても理解できるようになる。		○		
				○	○	
	基礎医学	人体がどのような構造と生理機能を持っているかを理解する。		○		
			○	○	○	○ ○
	メディカル心理学	心理学の全般的な領域について基礎的知識を身につける。その上で、心の問題を扱うことの難しさ、意義、倫理等について自分なりの考えを持つことができる。		○		
			○			○ ○
	メイクアップ理論	顔分析理論から、各パーツの修整方法、色・形・質感で操作するイメージメイク理論を学び、TPOに合わせたメイクや自分に合うメイクを知ることができます。またメイクアップにまつわる基本知識をトータルに学ぶことができ、JMA知識検定(ベーシック・アドバンス)合格を目指せます。		○	○	
			○			○
	美容総合学	美容全般、スキンケア、皮膚について基礎的かつ実際の知識を取得、理解する。		○		
			○			○
	化粧品学	化粧品の基礎知識(スキンケア化粧品、メイクアップ化粧品、その他)について基礎的かつ実践的な知識を習得・理解する		○		
			○			○
	美と健康の薬膳学	・季節ごとの体の変化に合わせた食でのセルフケアができる・美容やダイエットなど目的に合わせた食でのインナービューティーを実践できる・気血水での個別体質診断ができる・身近なトラブル、ストレスによる体への不調がなぜ起きるのか		○		
			○			○

副専攻科目

食とカラダの診断学	心身の状態を外見から判断できる「中医診断学」を身につけ体の診立て方を習得する。食材をタイプ別にまとめた「食材マップ」を使用し、その方の体質に合った食事指導ができる人材を育成する。将来食と健康のカウンセリングをするために		○				
		○			○		
色彩学入門	色に関する基本的な知識を理解し、色彩に関する感性や心理効果を習得する。課題制作を通して配色や色の認識、色彩表現を体験し、日常生活の中で様々な色を実践的に活用する事ができる。		○	○			
		○			○	○	○
色彩心理学	色が私たちの生活において果たす物理的・生物学的・心理的な役割について、基礎的な知識を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○		
デザイン基礎	デザインに関する基礎知識を理解し、デザイン思考のプロセスに則り生活の中で利用者の共感を得るモノのデザイン企画に取り組むことができる。		○				
		○			○		○
イラストレーション	好きな画材、あるいはデジタル描画ソフトを使用し、イラストを完成させる技術を身に付ける。欲を言えば、作品の発表・公開に慣れる。		○	○			
			○	○	○		○
ブライダルドレス	ドレススタイリストに必要な知識・ブライダル業界をはじめ様々な業界で活躍できる提案力・営業力を身につける。		○				
		○				○	
ブライダルプランナーⅠ	ブライダルプランナー検定2級(1級)の合格を目指し、ブライダル業界の現状やウェディングプランナーに必要な知識や用語を身に着ける。		○				
		○				○	
バレエⅠ(入門)	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。レッスンマナーを学び、周りの人へ思いやりのある精神面でも高い女性を目指す。		○				
		○	○			○	
バレエⅡ(基礎)	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。グループワークと課題は全員で取り組み、一つのものをつくる達成感を味わう。		○				
		○	○			○	
ダンスⅠ	身体の使い方の基礎、各種のステップ、レパートリーワーク、作品の見方、味わい方、踊り方を学びグループにより作品発表によって自己開示、他者理解を深めて、個人技能の獲得と体のコミュニケーション能力を高める。		○				
		○			○	○	
ダンスⅡ	ストレッチングの理論と実践エクササイズの理論と実践アイソレーション・リズムトレーニング・基本ステップ・ステップコンビネーション以上を毎時間実施し、最終的にはショートプログラムの振り付けを完成させる。		○				
		○			○	○	
ミュージカル総合Ⅰ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○	○			
		○			○	○	
ミュージカル総合Ⅱ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○	○			
		○			○	○	
ミュージカル総合Ⅲ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○	○			
		○			○	○	
ミュージカル総合Ⅳ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○	○			
		○			○	○	
ミュージカル総合Ⅴ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○	○			
		○			○	○	
ミュージカル総合Ⅵ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○	○			
		○			○	○	
舞台技術	舞台美術、照明、音響、衣装など舞台づくりに欠かせない基礎知識を理解したうえで、舞台に立つ者の立場、演出する立場など、それぞれの役割のなかでの舞台技術の重要性を理解する。			○			
		○	○		○	○	
医療管理学概論	医療保険制度などの専門知識を習得して、その概要について説明できるようになる。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	
医療事務総論	医療機関における関係法規・医療機関の運営や管理について理解できる。		○	○			
		○	○	○	○	○	
医療秘書学	医療秘書としてふさわしい素養、接客対応を身に付け、医療機関という特殊な場所での仕事について理解します。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	

副専攻科目	医学一般	1.人体の解剖・生理の基礎的な知識がある。 2.一般的な傷病に関する基礎知識を理解できる。 3.一般的な医学・医療用語(略語含む)に関する知識がある。 4.一般的な検査と傷病又は臓器との関連について、基礎的な知識がある。 5.代表的な薬効別薬品名を知っており、適応症と診療録(カルテ)より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成する知識と技術を習得します。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	診療報酬請求事務		○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	秘書学総論	変容するビジネス社会に対応できるフレキシブルな思考力を身につける。また、2025年2月実施の秘書検定2級合格を目指す。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	秘書実務1	ビジネスマナーとして必要な知識・技能を修得する。また、2025年2月実施の秘書検定2級合格を目指す。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	秘書実務2	ビジネスマナーとして必要な実践的な知識・技能を修得する。また、2024年11月実施の秘書検定準1級合格を目指す。		○				
				○	○			
	AI. データサイエンス	①AI やデータサイエンスの意味と価値を理解する。②AI やデータサイエンスにおけるデータ分析の方法を理解する。③AI やデータサイエンスが実社会や各学問領域で広く活用されていることを理解する。		○	○			
			○	○	○	○	○	○
	メンタルヘルス入門	メンタルヘルス(精神保健福祉)の様々な課題について理解し、自分自身の身近な問題として捉え考えること		○	○			
			○	○	○	○		
	動物飼養管理概論	アニマルセラピーに対して自分自身の意見、立場を表明できるようになることが目標である。		○	○			
			○	○	○	○		
	ペットビジネス	ペットシッターやペットホテルでの独立開業を目指すレベルの知識と実力を身につけることを目標にしています。ペットショップや動物病院への就職を目指す方にも有意義です、相談にものります。将来的にお仕事にすることはなくても、ペット業界の様々な側面を知り、ペットや動物共生社会に対する造詣を深めていただきたいと思います		○	○			
			○			○	○	
	動物社会学	ニホンザルとヒトに近い類人猿などの霊長類、霊長類以外の哺乳類(キリン、サイなど)の子育てや社会での暮らしなどを紹介します。ヒト以外の霊長類、他の哺乳類とヒトの行動との相違点や類似点を常に考えてください。その過程で、ヒトの理解も自ずと進みます。サルなどの哺乳類を通してヒトの理解ができることを実感しながら、論理的思考能力や表現力の向上も目指します。		○	○			
			○	○	○	○	○	○
	小動物臨床看護学	一般動物病院で役立つ動物看護の基礎知識を身に付け、動物との暮らしについてより深く理解する		○	○			
			○	○	○	○	○	○

文化表現学部 国際英語学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①英語を「話す」、「聴く」、「読む」、「書く」ための基礎的な力								
②英語圏を中心とする異文化を理解する力								
③グローバルな視野から物事を考える力								
④英語を使用する現場で、身につけた知識に基づき英語を適切に運用する力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
	Speaking Skills I	英語の語彙と文法の力を高め、無理なく自分の考えや意見を述べたり、個人的な情報を尋ねたりできるコミュニケーション技術を身につける。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills II	英語の語彙と文法の力を高め、無理なく自分の考えや意見を述べたり、個人的な情報を尋ねたりできるコミュニケーション技術を身につける。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills III	会話に必要な英語の基本的な語彙や文法、発音について学ぶ。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills IV	英語でのコミュニケーション能力をさらに伸ばす。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills V	自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills VI	自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Writing Workshop I	英語で基本的なメールが書けるようになる。また、日常的なトピックについて簡単な話を書く力を養う。	○			○		
					○	○		
	Writing Workshop II	身近なトピックについて2つのパラグラフが書けるようになる。また、10分間で100語程度の英語の文章が書けるよう訓練する。	○			○		
					○	○		
	Writing Workshop III	自己紹介、故郷や友達について英語で書く。また、英語の技巧を用いて文章が書けるように学ぶ。	○			○		
					○	○		
	Writing Workshop IV	明快で論理的な英文を難なくかけるように学ぶ。	○			○		
					○	○		
	Reading Workshop I	一文一文日本語に訳していくのではなく、ポイントをつかみながら英語のままて文章を理解していくコツを身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	Reading Workshop II	一文一文日本語に訳していくのではなく、ポイントをつかみながら英語のままて文章を理解していくコツを身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	Reading Workshop III	文の基本構造を意識しながら、文頭から英語の語順のまま読む力を身に付け、日本の文化的特徴、欧米の文化との相違を英語を通して理解・発信できるようになる。	○	○	○	○		
					○	○		○
	Reading Workshop IV	文の基本構造を意識しながら、文頭から英語の語順のまま読む力を身に付け、日本の文化的特徴、欧米の文化との相違を英語を通して理解・発信できるようになる。	○	○	○	○		
					○	○		○
	TOEIC I	目標は以下の3つです。1 リスニングは耳ばかりで行なうものではなく、頭を使って行なうものであることを認識する。2 様々なことを瞬時に判断しながら、英文を的確に聴き取る力をつける。3 この授業で学んだことを、今後どのように活かすかを考える。	○			○		
					○	○		○
	TOEIC II	目標は以下の3つです。1 リスニングは耳ばかりで行なうものではなく、頭を使って行なうものであることを認識する。2 様々なことを瞬時に判断しながら、英文を的確に聴き取る力をつける。3 この授業で学んだことを、今後どのように活かすかを考える。	○			○		
					○	○		○

基本科目	ビジネス英語Ⅰ	新しいビジネス環境に対応したビジネス英語の基礎を学ぶ。	○			○		
					○	○		○
	ビジネス英語Ⅱ	新しいビジネス環境に対応したビジネス英語の基礎を学ぶ。	○			○		
					○	○		○
	英文法Ⅰ	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	英文法Ⅱ	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	国際英語演習Ⅰ 1	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅰ 2	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅰ 3	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅰ 4	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ 1	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ 2	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ 3	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ 4	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圈に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	卒業演習Ⅰ 1	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ 2	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ 3	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ 4	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ 1	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ 2	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ 3	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ 4	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○

発展科目	メイクアップテクニックⅠ	グローバルな視野を持ちながら、美容に関する実践的なスキルを学び、多様な美的価値観への理解を深める。			○	○		
			○			○		○
	メイクアップテクニックⅡ	グローバルな視野を持ちながら、美容に関する実践的なスキルを学び、多様な美的価値観への理解を深める。			○	○		
			○			○		○
	エアラインビジネス論Ⅰ	エアライン業務に関する基礎知識を習得し、航空業界への理解を深める。			○	○		
			○	○		○		○
	エアラインビジネス論Ⅱ	エアライン業務に関する基礎知識を習得し、航空業界への理解を深める。			○	○		
			○	○		○		○
	エアライン研究	エアライン業界の全体像を把握し、より実践的な知識を身につける			○	○		
			○	○		○		○
	エアラインの英語Ⅰ	エアライン業務に必要な英語表現を習得する。	○		○	○		
			○			○	○	○
	エアラインの英語Ⅱ	エアライン業務に必要な英語表現を習得する。	○		○	○		
			○			○	○	○
	観光ビジネス論Ⅰ	1)観光学を体系的に理解する。2)観光に関する基本的知識を習得する。3)観光と地域との関わりを考える。		○	○			
			○			○		○
	観光ビジネス論Ⅱ	1)観光学を体系的に理解する。2)観光に関する基本的知識を習得する。3)観光と地域との関わりを考える。		○	○			
			○			○		○
	旅行観光業研究Ⅰ	日本の旅行業や観光業の特徴、現状、問題点および課題を学び、旅行観光業界への理解を深めることを目的とする。		○	○			
			○				○	○
	旅行観光業研究Ⅱ	日本の旅行業や観光業の特徴、現状、問題点および課題を学び、旅行観光業界への理解を深めることを目的とする。		○	○			
			○				○	○
	観光英語Ⅰ	観光英語検定2級相当の学力をつけること。特にリスニング問題やディクテーションを繰り返すことにより、英語を「聴く」力をしっかりと身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	観光英語Ⅱ	観光英語検定2級相当の学力をつけること。特にリスニング問題やディクテーションを繰り返すことにより、英語を「聴く」力をしっかりと身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	国際観光フィールドワーク	本フィールドワークでは、古都・京都をはじめ、中国・韓国・フランスの古都の比較研究をし、国際的な視野を広める機会づくりを目標としたい。とくに、京都観光文化検定試験や世界遺産検定(京都では17件の寺社・城)の受験指導をも兼ねた体験型学習を行うものである。		○	○			
			○	○		○		○
	ホスピタリティ論Ⅰ	ホスピタリティの基本的な概念を把握する。ホスピタリティの語源と歴史との関連性について理解する。ホスピタリティ産業におけるホスピタリティの役割や特徴を理解する。			○			
			○	○		○		
	ホスピタリティ論Ⅱ	本講義ではホスピタリティビジネスの業界自体の特性と現状を理解し、どのような諸問題があり、その対応策とは何かを理解することを旨とする。			○			
			○	○		○		○
	国際観光論Ⅰ	国際観光に関する専門用語を理解し、観光ビジネスに関する基礎知識を修得することを目的とし、とくに、世の中の変化を読み取る能力を高めたい。		○	○			
			○	○		○		○
	国際観光論Ⅱ	単に旅行のスキルを身に付けるだけではなく、世界の文化や観光資源に関するマーケティング戦略をグローバル・スタンダードで捉える得る人材の輩出を目標としたい。		○	○			
			○		○	○		○
	国際秘書学総論	国際秘書に関する基礎知識を習得し、秘書業務への理解を深める。		○	○			
			○	○	○	○	○	○
	Area Studies(Europe)Ⅰ	ヨーロッパの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(Europe)Ⅱ	ヨーロッパの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(North America)Ⅰ	アメリカの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(North America)Ⅱ	カナダの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(Asia & Oceania)Ⅰ	オセアニアの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(Asia & Oceania)Ⅱ	アジアの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Cultural Studies(Beauty Values)	グローバルな視野を持ちながら、多様な美的価値観への理解を深める。		○	○			
				○	○			○
	Cultural Studies(Beauty and Cinema)	グローバルな視野を持ちながら、多様な美的価値観への理解を深め、映像で表現される美の理念を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Cultural Studies(Beauty and Photography)	グローバルな視野を持ちながら、多様な美的価値観への理解を深め、写真で表現される美の理念を学ぶ。		○	○			
				○	○			○

	世界遺産を学ぶ	世界遺産スペシャリストとして認定されている資格「世界遺産検定2級、3級」に合格することを目標とする。		○	○			
			○		○	○		○
	Advanced English for TOEIC I	これまで培ってきた英語力をさらに伸ばし、卒業後の進路も視野に入れて、TOEICでの高得点取得を目指す。	○			○		
					○	○		○
	Advanced English for TOEIC II	これまで培ってきた英語力をさらに伸ばし、卒業後の進路も視野に入れて、TOEICでの高得点取得を目指す。	○			○		
					○	○		○
	留学試験の英語 I	(1)TOEFL受験に備えた4技能を強化する(2)TOEFL受験に備えたボキャブラリーを強化する(3)留学に備えた知識を身につける。	○			○		
				○		○		○
	留学試験の英語 II	(1)TOEFLの新形式を理解する(2)やや高度な長文が読解できる(3)やや高度な英文が聞き取れる。	○			○		
				○		○		○
	英語圏の文学 I	文学作品とはたじろぐものではなく、楽しむものだということがわかる。詩を読むということが、どういう作業で成り立っているのかわかる。また、読んだ作品について、自分の意見を表現できるようにする。		○		○		
				○	○			○
	英語圏の文学 II	イギリスを舞台に女性たちがどのように生きたかを文学作品を通して考える。現代を生きる私たちのヒントになれば幸いである。		○	○			
				○	○			○
	言語学 I	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	言語学 II	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	海外実習	異文化に触れて視野を拡大するとともに、実習校において英語の授業を受けることで、英語力を向上させる。	○	○	○	○		
				○	○	○	○	○
	海外修得単位	異文化に触れて視野を拡大するとともに、実習校において英語の授業を受けることで、英語力を向上させる。	○	○	○	○		
				○	○	○	○	○
資格関係	英語科教育法 I	英語科教育法の流れをつかみ、さまざまな教育法に触れる。学習指導要領が求める授業レベルを実現するために、より良い教育法を考える。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	英語科教育法 II	学習指導要領が求めるような指導をどのようにしたらできるかを考える。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	英語科教育法 III	自分なりに考えた授業の指導案を作り実際に模擬授業を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	英語科教育法 IV	自分なりに考えた授業の指導案を作り実際に模擬授業を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
卒業論文		各自が選んだテーマに沿って、論文執筆をする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○

文化表現学部 日本文化学科のカリキュラムマップ

Ⅰ 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)						
① 歴史や文学、日本語や日本文化についての知識・観察力・調査力・問題発見解決能力・論理的思考力。						
② 日本語を中心とするコミュニケーション力・表現力。						
③ 国語や書道を教授できる知識・技術・指導力。						
Ⅱ 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例				
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力				
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力				
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力				
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力				
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力				
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力				
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号			
			上段：到達目標(DP)			
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力			
			①	②	③	④ ⑤ ⑥
	日本文学入門	『古事記』上巻に記された神話を読むことで、日本人がアジアを視野に入れて育んだ世界と表現の特徴を知る。	○	○	○	
			○	○	○	
	日本語学入門	日本語の基礎的知識を身につけ、ことばの科学的な見方、研究を理解し、自分のことばの使い方を磨く。	○	○	○	
			○	○	○	
	日本文学の歴史(古典)	歴史の流れと日本古典文学の流れがどのように関連しているかを理解する。各時代における作品や作者の傾向を把握する。テキストに出てくる用語や熟語の意味を正確に把握する。	○		○	
			○		○	
	日本文学の歴史(近代)	おおまかな近・現代日本文学史を理解するとともに、代表的な作家やその代表作について知る。	○		○	
			○		○	
	絵本の歴史	特に戦後の絵本史について学び、理解する。その時代の代表的な作家・作品を知り、自分のことばで説明し紹介できるようになる。	○	○	○	
			○			○
	中国文学の歴史	中国史の時代的な流れを正確に把握する。各時代の代表的な作品の形式や、内容的特徴などを確実に把握する。中国文学と日本文学の関連について、その実例に触れるとともに、両者の関係の深さを理解する。	○		○	
			○		○	
	現代の日本語	話しことばの特徴を知り、日本語と日本人の考え方との関係を考え、理解し、いろいろな表現に関心を持ち、調査・研究の能力を高める。	○	○	○	
			○	○	○	
	歴史を探る	史料を読み解き分析する方法を学び、歴史的なものの見方・捉え方に触れる。	○		○	
			○	○	○	
	作品を読む(古典)	古典作品の音読に慣れ、文章の大意をつかみ、作品に記された内容を正確に把握する。作品の背景にある当時の人々の生活やものの見方、考え方を理解する。	○		○	
			○		○	
	作品を読む(近現代)	小説にはどのようなテクニックが用いられているかを知るとともに、作品を精読する楽しさを味わう。	○		○	
			○		○	
	絵本を読む	大人が絵本を楽しむために必要な絵本の知識と、良い絵本・悪い絵本を見極める選択眼を身につける。	○	○	○	
			○		○	
	日本語演習Ⅰ	各種辞典の良し悪しを知り、また使い分けができるようになる。外来語の知識を増やし、外来語の問題を意識して、他者に通じる語の選択ができるようになる。	○	○	○	
			○	○	○	
	日本語演習Ⅱ	各種辞典の良し悪しを知り、また使い分けができるようになる。外来語の知識を増やし、外来語の問題を意識して、他者に通じる語の選択ができるようになる。	○	○	○	
			○	○	○	
	日本文学演習(古典)Ⅰ	上代を中心とする古典文学の基本的な読み方を身につける。	○	○	○	
			○	○	○	
	日本文学演習(古典)Ⅱ	上代を中心とする古典文学の、表現の特徴と個性を知る。	○	○	○	
			○	○	○	

基本科目

日本文学演習(近現代)Ⅰ	作品を精読する楽しさを味わうとともに、作品研究の能力を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本文学演習(近現代)Ⅱ	作品を精読する楽しさを味わうとともに、作品研究の能力を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本史演習Ⅰ	歴史史料を読解するために不可欠な知識や調査能力を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本史演習Ⅱ	歴史史料を読解するために不可欠な知識や調査能力を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
歴史文化フィールドワーク	講義や事前調査で得た知識・情報をもとに、歴史や文化が育まれた現場を訪れて体験し、一つの問題を深く追究する方法を学ぶ。事前調査・発表・実習後の振り返りを通じて、情報を収集し、それを整理できる能力を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
観光フィールドワーク	実習の行程を計画して企画書を作成し、それをプレゼンテーションする中で、実践的な企画力・発信力を身につける。事前調査・実習により訪問先の歴史・文化を深く学び、専門的な知識に基づいた観光コースの立案ができるようになる。	○	○				
		○	○	○	○	○	○
漢文を読む	漢文を読めるようにする。漢文に関する基本的な知識(漢字について・漢文の構造・訓読の約束事・句法など)をしっかりと身につける。	○		○			
			○	○			
書写研究	学習指導要領における小・中学校国語科書写の目標、内容を理解し、学習指導に必要な基本となる知識を身につける。実習を通して書写能力を高め、指導法や評価法について理解を深める。			○			
		○	○	○	○	○	○
書道の基礎(国免)	中学校の国語書写について概要を理解する。学習指導に必要な基礎的な知識を学び、実習を通して実技力を高める。	○		○			
		○	○	○			
図書館情報資源概論	図書館に収集される情報資源の類型と特質について説明できる。図書館がどのように情報資源を収集し、保存し、コレクション形成していくのか、その維持・発展に関わる様を説明することができる。出版業界を取り巻く環境の変化や業界が抱える問題点について、説明することができる。	○	○				
			○				
情報サービス論	図書館における情報サービスの種類や特徴について説明することができる。テーマ別にレファレンス資料を分類することができる。	○	○				
			○		○		○
専門演習Ⅰ	各専門分野における研究、創作に必要な知識と能力を身につける。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
専門演習Ⅱ	各専門分野における研究、創作に必要な知識と能力を身につける。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
卒業演習Ⅰ	各専門分野における研究、創作の集大成としての卒業論文、卒業創作のテーマを設定し、構成の見通しを得る。	○	○	○			
		○	○	○	○		○
卒業演習Ⅱ	各専門分野における研究、創作の集大成としての卒業論文、卒業創作を完成させる。	○	○	○			
		○	○	○	○		○
日本の文化1	茶の湯を通して日本の歴史と文化・美術の形成過程を学び、伝統文化が過去のものではなく、現在の生活のなかにあることを理解する。	○	○				
		○		○	○		○
日本の文化2	日本の伝統衣装である着物についての理解を深め、着物文化を継承するためにその装着方法を知る。	○					
		○		○			○
日本の文化3	日本の住文化の歴史と特質を理解する。	○					
		○	○	○			○
日本の文化4	日本の食文化の歴史と特質を理解する。	○					
		○	○	○			○
関西の歴史と文化	「関西」に関わる歴史や文化の専門的な知識を身につける。過去の日本について学ぶ中で、現在の価値観に縛られず、常識的な見方を相対化できる能力を身につける。	○		○			
		○	○	○			○
旅と歴史	過去の日本人の「旅」について、歴史的な視点から分析し、旅の意義や現代との共通点・相違点を考察する。歴史史料(絵巻物・文学作品など)を読解し、史料(資料)から情報を抽出する能力を身につける。	○		○			
		○	○	○			○

発展科目

アニメで学ぶ日本の歴史	アニメを通じて歴史的なものの見方・考え方を学び、そうした視点から現代社会を相対化することで、現代日本の社会や文化について豊かな見方ができる力を身につける。	○		○			
		○	○	○			○
マンガで学ぶ日本の歴史と文学	出典となる文献とマンガを読み比べることで、作者たちの関心の所在と表現の特徴を知る。	○		○			
		○	○	○			
近現代の小説	分析的な読みを通して、作品がどのように創られているかを知り、作品世界をより深く理解し、味わう。	○		○			
		○		○			○
日本語演習Ⅲ	日本語のバラエティ豊かな語彙や表現について学び、実用的な文章作成や創作活動に役立てる。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本文学演習(古典)Ⅲ	上代を中心とする古典文学を読み、表現の特徴や個性を理解する。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本文学演習(近現代)Ⅲ	近現代の短編小説を対象に作品分析を試み、作品の構造やテーマについての理解を深める。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本史演習Ⅲ	歴史史料の分析に取り組むことを通じて、過去の出来事を研究する方法を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
日本文化演習	日本文化についての理解を深めるとともに、プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
地域観光学演習Ⅰ	地域に根ざす文化を学び、社会に活かす方法を身につける。	○	○				
		○	○	○	○	○	○
地域観光学演習Ⅱ	地域に根ざす文化を学び、社会に活かす方法を身につける。	○	○				
		○	○	○	○	○	○
観光ビジネス演習Ⅰ	日本の文化を観光や仕事に活かす方法を身につける。	○	○				
		○	○	○	○	○	○
観光ビジネス演習Ⅱ	日本の文化を観光や仕事に活かす方法を身につける。	○	○				
		○	○	○	○	○	○
Web出版	Webを用いて公開する作品の企画や制作を担当する。プレゼンテーションを重ね内容を充実させ、完成した作品をインターネット上で公開する。	○	○				
		○	○	○	○		○
書道の基礎(書免)Ⅰ	楷書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
		○	○	○			○
書道の基礎(書免)Ⅱ	隷書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
		○	○	○	○		
書道Ⅰ	行書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
		○	○	○			○
書道Ⅱ	仮名の成立過程と仮名書法との関係を理解する。仮名書法の基本を習得する。「高野切古今集」の学習を通して、古筆の臨書方法を理解する。	○		○			
		○	○	○	○		○
書道Ⅲ	仮名古筆の文字造形や線質を基本として、仮名書美の多様性を知り、そこに現代的感覚を盛り込んでいく。	○	○	○			
		○	○	○	○		
書道Ⅳ	大字仮名作品の歴史を踏まえ、現代仮名作家の文字造形や線質を参考にしながら大字仮名作品の制作を通して、その美について探求する。	○	○	○			
		○	○	○	○		
書道の歴史Ⅰ	中国書道史について理解する。	○		○			
		○	○	○			○
書道の歴史Ⅱ	日本書道史について理解する。	○		○			
		○	○	○			
書論研究Ⅰ	中林梧竹の「梧竹堂書話」を用い、書道の理論の理解を深める。	○		○			
			○	○			
書論研究Ⅱ	『書譜』『東坡題跋』『画禅室随筆』などを用い、中国の書論への理解を深める。	○		○			
			○	○			○

	硬筆書写	硬筆において、書美を日常の書に活かすことができるように、必要な知識と技術を身につける。	○	○				
			○	○	○	○		
	図書館サービス概論	図書館サービスの基本的な理解を図る。図書館利用者のニーズを把握し、適切なサービスを提供できる。	○	○				
				○		○		○
	図書館制度・経営論	図書館に関わる制度と公共機関の経営の基本的な理解を図る。図書館の社会的重要性を理解する。		○				
				○	○		○	
資格関係	国語科教育法Ⅰ	高等学校の国語科教育の概要を理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	国語科教育法Ⅱ	高校国語の教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って国語を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	国語科教育法Ⅲ	中学校の国語科教育の概要を理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	国語科教育法Ⅳ	中学国語の教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って国語を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	書道科教育法Ⅰ	芸術科書道教育の概要について理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	書道科教育法Ⅱ	教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って書道を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作	学習の総まとめとしての卒業論文・卒業制作を完成させる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○

文化表現学部 情報メディア学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
① 情報メディアを駆使して、新たな文化を創造できる知識と技能を習得している。								
② 情報をグローバルに把握し、情報発信の担い手として社会に貢献できる能力を習得している。								
③ 幅広い医療分野の知識と情報メディアを活用した事務処理能力を備え、社会に貢献する強い意志を持つ。								
④ 社会のトレンドに鋭敏な感性を持ち、豊かな個性を表現し発信できる知識と技術を習得している。								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
基本 科目	情報メディア基礎演習	ノートPCの基本的仕組みを知り、基本的な保守点検とトラブル時の対処ができる。ネットワークに接続し、メールを活用できる。セキュリティ・著作権に配慮できる。プロジェクトを立ち上げ課題を遂行し、成果を発表する方法を知る。	○	○	○			
	Webサイト制作基礎	基本的なホームページを作成できる。画像やハイパーリンクの挿入ができる。他者が閲覧しやすいホームページの表示方法を知る。	○	○				
				○	○	○		○
	オフィスアプリケーション	他者との協調・協働を促進するためのプレゼンテーションの方法を習得する。画像の挿入や表・グラフによるデータの表示、アニメーションの利用等による効果的な表現ができる。	○	○				
				○	○			○
	情報検索論	情報検索の仕組みを理解し、基本的な検索スキルにより必要な情報を取得できる。各種検索サイトの特性を知り、活用できるようになる。	○	○	○			
				○	○			○
	Webコンテンツ基礎	様々なツールを用いて画像を加工し、魅力あるコンテンツ作成の方法を身につける。CSSを用いて、効果的なコンテンツ表現ができるようになる。	○	○				
						○	○	○
	オフィスアプリケーションⅡ	データを他者と共有し、効率的なデータ管理ができるようにデータベースを作成できる。用途に合わせてデータベースを活用できる。	○	○				
				○	○			○
	クリエイティブデザイン	各種メディアを活用した情報整理とレポート作成方法を学び、学習履歴の蓄積と就職活動に向けたポートフォリオを各自で制作できる。	○	○		○		
				○	○	○	○	○
	マスコミ概論	マスコミで必要とされる表現力、なかでも「聞く力」「書く力」を身につける。各自の考えを正確に伝えることができるようになる。	○	○				
			○	○	○	○		○
	ライブパフォーマンス概論	自分の声や身体で表現する方法範囲を広げると共に、想像力を豊かにさせる。	○	○				
			○			○	○	○
	ビジネス基礎論	経営学に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な問題設定と分析、提言ができる。		○				
				○	○	○		
	ファッション情報概論	情報メディアを駆使して、必要なファッション情報を的確に収集し、その情報を活用する技術を習得する。	○	○		○		
				○	○			○
	デザイン基礎演習	デザインの構成要素について説明できる。コンテンツの企画・制作ができる。デザインのアウトプットができる。	○	○				
			○			○	○	○
	プログラミング入門	AIの開発に使われているPythonを基礎から学ぶ。基本的な制御構造(条件分岐・繰り返し)を理解し、変数やリストなどを用いて問題を解決できる。	○	○				
				○	○			○
	ITシステム基礎	コンピュータを構成するハード・ソフトについて理解した上で、ネットワークの仕組みと情報セキュリティについて説明することができる。さらにシステム開発やプロジェクトマネジメントについての知識を身につける。	○	○				
				○	○			○
	ITビジネス基礎	企業の情報マネジメントの基礎的な項目を理解する。他者とのプロジェクト作業におけるPDCAのサイクルを理解する。	○	○	○			
				○	○			
	図書館情報資源概論	図書館に収集される情報資源の類型と特質について説明できる。図書館がどのように情報資源を収集し、保存し、コレクション形成していくのか、その維持・発展に関わる様を説明することができる。出版業界を取り巻く環境の変化や業界が抱える問題点について、説明することができる。	○	○				
					○			
	情報サービス論	図書館における情報サービスの種類や特徴について説明することができる。テーマ別にレファレンス資料を分類することができる。	○	○				
					○		○	○
	サウンドデザイン論	メディアを活用してサウンドをデザインするための知識と技術を学び、各自の想いを音で表現できるようになる。	○	○				
			○	○	○			○
	図書館情報技術論	図書館運営やサービスの提供に関わる情報技術全般について理解する。図書館サービスにおける情報メディアの活用について学ぶ。	○	○				
				○	○			○

	カラーコーディネイト論	実際に配色の効果を考えたプレゼンテーションのスライドを作成できる。カラーコーディネイトの理論を理解し、それを実践できる。	○	○		○		
			○	○	○			○
	3Dグラフィックス	新たな情報の表現手法である3Dグラフィックスについて学び、基本的な3Dモデリングとアニメーションの設定ができる。	○	○				
			○	○	○			○
	映像制作論	様々な作品に隠されたテクニックを分析し理解することで、自分の作品へとつなげていく能力を身につける。	○	○				
			○	○	○			○
	情報メディア演習Ⅰ	情報メディアの各分野毎に、必要となる問題発見・解決のための基礎知識とスキルを習得し、他者との共同作業による実践的な課題の遂行および発表を行うことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	情報メディア演習Ⅱ	各専門分野の理解を深めるとともに、情報メディア演習Ⅰで習得した問題解決能力をさらに発展させ、高度な課題に取り組むことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	卒業演習・制作Ⅰ	各専門分野における具体的な研究テーマを設定し、必要となる知識・スキルを習得しながら、問題提起・解決法の提示・検討を繰り返すことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	卒業演習・制作Ⅱ	卒業論文・制作の研究テーマについて議論を進め、独自の結論を導き出し、全体の成果をまとめて発表することができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	Webデザイン	自ら情報発信できるコンテンツをもつ。企画のプレゼンテーションができる。一般公開可能なWebページの制作ができる。	○	○				
			○		○	○		○
	グラフィックデザイン	身近な情報のリサーチと誌面の企画ができる。ロゴやイラストのデザインができる。DTPによる誌面デザインができる。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	プログラミング	情報メディアを活用するためのプログラミング技術について、その初歩からはじめ、最終的にはソフトウェア開発の仕組みと手順まで理解する。	○	○				
				○	○			
	プログラミング演習	プログラミングに必要な考え方(アルゴリズム、データ構造)を理解し、設定した目標を達成するための指針を立てて実行できるようになる。	○	○				
				○	○	○		
	データサイエンス基礎	大量のデータを、コンピュータと統計という処理手法を使って分析し、求められる指標からそれらが意味することを読み解く力を身につけている。		○		○		
				○	○			○
	Webアニメーション	JavaScriptによるアニメーションの作成方法を学び、閲覧者にとって使いやすいユーザーインターフェースが作成できる。	○	○				
				○	○		○	○
	ゲーム制作入門	ゲーム制作の演習を通して、ゲーム開発の手順や必要な技術を身につける。ゲームエンジンの使い方を理解し、自分でもオリジナルなミニゲームを制作できる。	○	○				
				○	○	○		○
	インテリジェントプログラミング	人工知能(AI)の仕組みと機能、および活用の広がりについて知り、実際にプログラム言語を使って、AIを活用したソフトウェアの作成方法を学ぶ。	○	○		○		
			○	○	○	○		○
	3Dアニメーション	新たな表現手法である3Dアニメーションを制作するための基本的知識と技術を習得する。キャラクターを使った3Dアニメーションを制作できる。	○	○				
				○	○			○
	ゲームプログラミング	具体的な3Dゲームのサンプルを学びながら、プログラミング技術を習得する。実用的なゲームを作成できるようになる。	○	○				
				○	○			○
	広告入門	広告に関する基礎知識を身につけ、広告の多様さを知るとともに、特定のテーマに関する広告を企画できるようになる。	○	○				
			○	○	○	○		
	ヴォイスパフォーマンス基礎演習	・声量の向上及び場面においての声量コントロール ・聞き取りやすい言葉の発音		○		○		
			○			○	○	○
	ボディパフォーマンス基礎演習	舞台表現としてのマイムやパントマイムの技術習得とその構造を理解することができる。 マイムの歴史や成り立ちを理解することでパフォーマンスアーツ全体に関する知識や理解を深		○		○		
			○			○	○	○
	マスコミ研究	I: マスコミの表現を学びながら、並行して「文章力アップのための6つのステップ」を修得する。 II: 全員で一冊の雑誌を作り、その過程で文章、イラスト、写真、デザイン、編集、校正等、雑誌作りに必要な技法を学ぶ。学外研修(京都の出版社)を実施する予定	○	○				
			○	○	○	○		○
	広告・コピーを創る	I: 印刷媒体、特に新聞広告のキャッチフレーズを分析し、その表現手法を学ぶ。 II: ラジオCMの発想法を学び、次にテレビCMの企画コンテの制作にチャレンジする。	○	○				
			○	○	○	○		○
	ヴォイスパフォーマンス応用演習Ⅰ	情報伝達のための正確なアナウンスメントとは何かを知り、各自が練習により実践できるようになる。						
			○			○	○	○
	ジャーナリズム論	文章と映像と音楽を融合させた表現であるカットノベルの作成を通して、ジャーナリズムとは何かを理解する。	○	○				
			○	○	○	○		○
	番組制作	番組制作に必要な基本的知識と作業手順について学び、実習における自主的な創作活動につながるよう準備する。	○	○				
			○	○	○		○	
	ヴォイパフォーマンス応用演習Ⅱ	しっかりした声と明瞭な発音を自ら感じられるようになること。躊躇をもたらず自意識や自信がないという呪縛から次第に解放されてゆくこと。		○		○		
			○			○	○	○

発展科目	ボディパフォーマンス応用演習Ⅰ	「表現者」としての技術習得とその構造を理解することができる。 パフォーミングアーツ全体に関する知識や理解を深め、自身の表現に応用することができる。 自身の身体と向き合うことで客観的な目線を持つきっかけを作ることができる。		○		○		
			○			○	○	○
	ボディパフォーマンス応用演習Ⅱ	身体を使って表現することの楽しさを知る。 パフォーマンスの際に恥ずかしさなどネガティブな部分なくそれぞれのレベルで自信を持ってパフォーマンスする力を身につける。 リズム感を鍛える。		○		○		
			○			○	○	○
	アパレル基礎論	アパレル業界に関する基礎的な知識や技術を学ぶ。また、魅力的な商品を企画し、サンプルを製作することで、商品への理解を深め、実践的に顧客意識を鍛える。		○		○		
			○	○	○			
	ファッションビジネス論	ファッション業界の機構とその果たす機能、社会・経済的な変化、それに伴う消費者の意識や購買意欲の変化など把握する。		○		○		
			○	○	○			○
	ファッションデザイン演習	テーマを調査・分析し、アイディアをかたちにすることができる。自分のイメージを他者に的確に伝達する方法を習得する。		○		○		
			○	○	○			
	ファッション史	各時代を代表する特徴的なファッションに関する知識を習得し、社会的背景や芸術様式との関連について知見を深める。		○		○		
			○	○	○			○
	ファッション雑誌研究	西洋における女性雑誌の変遷を知り、そのなかでファッションがどのような役割を果たしたのかを理解する。実際にファッション記事を作成し、表現手法を学ぶ。		○		○		
			○	○	○			○
	アパレル制作実習Ⅰ	被服に関する総合的な知識と技術を習得する。アパレル生産の製品化の流れと仕様を学び、ブラウスおよびスカートを制作する。		○		○		
			○	○	○			
	アパレル制作実習Ⅱ	体型に合わせた作図方法を理解し、自分のデザインを作図し、パターンにすることができる。トレンドの要素を取り入れ、デザインしたスカート・パンツを制作する。		○		○		
			○	○	○			
	ファッションカルチャー論	19・20世紀におけるファッション現象についての重要事項を把握する。現在のファッション現象を収集・分析する力を養う。		○		○		
			○	○	○			○
	医療事務総論	医療事務に携わる者として必須となる知識を学ぶ。医療機関における関係法規・関係機関の運営や管理について理解する。		○	○			
			○	○	○			
	医療秘書学	医療秘書に対する理解を深め、医療秘書としてふさわしい素養、接客対応を身に付け、医療機関という特殊な場所での仕事について理解する。			○			
			○	○	○	○		
	医療管理学概論	医療事務に必要な法令、病院の組織、運営、診療情報や管理についての専門知識を学ぶ。患者や家族の悩みや不安に対する相談援助の基礎知識を身につける。			○			
			○	○	○	○	○	
	医学一般	医療に携わる者として必要な医学全般の基礎的な知識を習得する。内容としては人体の解剖・生理、一般的な傷病、一般的な医学・医療用語(略語含む)、一般的な検査と傷病又は臓器との関連、代表的な薬効別薬品名と適応症と関連した知識が対象となる。			○			
			○		○			
	情報サービス演習Ⅰ	図書およびWebアーカイブ等のデータベース検索を通じて、情報検索に関する基本的な知識と技術を学ぶ。		○				
				○	○			○
	診療報酬請求事務	医療事務の具体的な業務内容として、診療録(カルテ)より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成することができる。			○			
			○	○	○	○		
	社会福祉概論	現代社会における福祉制度の意義を理解し、日常生活問題と福祉政策との関連性や福祉の原理をめぐり理論について理解する。また、現代の保健医療福祉問題の見識も広める。		○		○		
				○	○			
	情報サービス演習Ⅱ	レファレンスサービスの演習を通じて、レファレンスツールの特質及び利用法を習得する。		○				
			○	○	○	○		○
	児童ソーシャルワーク	児童家庭福祉の理念と制度の概要について学ぶ。児童と保護者に対するソーシャルワークの基礎を理解する。現代社会における児童の生活と課題について学ぶ。			○			
			○	○	○	○	○	
	図書館情報学概論	図書館の社会的役割について説明できる。各種図書館の特性や利用者ニーズについて解説できる。専門職としての図書館司書の資質と技能を理解する。図書館の自由とは何かを理解し、課題について考察できる。		○				
				○	○			○
	図書館サービス概論	図書館サービスの基本的な理解を図る。図書館利用者のニーズを把握し、適切なサービスを提供できる。		○				
				○		○		○
	図書館制度・経営論	図書館に関わる制度と公共機関の経営の基本的な理解を図る。図書館の社会的重要性を理解する。			○			
				○	○		○	
	卒業論文・卒業創作・卒業制作	情報メディアを駆使して、専門分野の情報収集・検索・整理ができる。新たな情報メディア文化を創造する能力を身につける。社会に貢献できる知識と技能を習得する。		○		○		
			○	○	○	○	○	○

心理こども学部 こども教育学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての知識、技術、倫理を修得し、児童教育、幼児教育、保育の現場で実践する力								
②こどもと保護者、さらにはこどもを取り巻く地域社会におけるさまざまな問題を発見し、解決する力								
③こどもと保護者との適切な関わりと信頼関係の構築、関係機関との協働関係を築くためのコミュニケーション能力								
④小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての総合的な表現力								
⑤こども音楽療育に関する理解と基礎的な力								
⑥児童文学と絵本についての理解と、伝達の基礎的な力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段 : 到達目標(DP)					
			下段 : 梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
須学科科目必	こども学入門	こどもに関する思想・こどもの文化についての基礎的な知識を身につける。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
本質・目的	教育原理	近代における子どもの発見の歴史と、それを出発点とする2方向の子ども観を理解することによって、近代教育の在り方を問い直すとともに、近代教育を超える新しい教育の可能性を考えていく視点を養う。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	保育者論	保育者に求められる知識、技能、姿勢を学ぶ。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	教師論(初等)	与えられた課題を無批判に受け入れるのではなく、自らが無批判に是認している思考、検討することなく受け入れている慣習などについて、わかったつもりにならず、問い続けていく姿勢を身につける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	教育社会学	(1)学校が直面する様々な教育課題を客観的に把握し、分析する力を育む。(2)プレゼンテーションをとおして、表現力・コミュニケーション力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	保育原理	保育における保育者のかかわりの重要性を理解し保育に関する基礎的、歴史的知識を習得する。	○	○	○	○		
			○	○	○			
	社会福祉	社会福祉のしくみ、方法、考え方について理解し、保育現場で役立てることができるようになる。	○	○	○			
			○	○	○			○
	子ども家庭福祉	保育実践に必要な児童家庭福祉に関する基礎的知識を習得する。	○	○	○			
				○	○			
	社会的養護 I	社会的養護を必要とする子どもたちの実態と支援の仕組みについて理解し、実践の現場で活用できるようにする。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
対象の理解	発達心理学	(1)子どもたちの主体的な学びを支える心の発達過程を理解する。(2)生涯発達における初期経験の重要性を基に、保育・教育者としての家庭支援のあり方を考える。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	保育の心理学	(1)心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。(2)発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。(3)子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解するとともに、子どもと家庭に関して包括的に理解する。	○	○	○			
			○		○	○		
	初等生徒・進路指導論	(1)生徒指導提要の内容を理解す。(2)児童生徒指導と進路指導の具体的な方法とそれらの意義を理解する。(3)児童生徒指導と進路指導における現代的課題に基づき、教師の担うべき役割を考える。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	教育相談	(1)教育相談の意義と役割(学校内外の関係者との連携を含む)を理解する。(2)カウンセリングの基本的技法を習得する。(3)児童やその保護者の抱える心の諸問題の理解を深め、支援のあり方について考究する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	幼児理解・教育相談	子どもを理解 する上での基本的な考え方を理解するとともに、そのための具体的方法を理解し、保育士の援助や態度の基本について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	子どもの保健	子どもの保健全般についての基礎知識を習得することにより、保育士として必要な子どもの健康・保健等に関する視点を養う。	○	○	○			
			○	○	○			

教育内容・指導法	子どもの健康と安全	乳幼児のこころとからだの健康を保持増進するための援助が実践できるとともに、援助をするときにどのような知識や配慮が必要か理解できるようになる。	○	○	○			
			○	○		○	○	
		子どもの食と栄養	○	○	○			
			○	○	○		○	
		子ども家庭支援論Ⅰ	○	○	○			
			○	○	○			
	子ども家庭支援論Ⅱ	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状、課題について事例を通して具体的に理解する。	○	○	○			
			○	○	○			
	国語科内容論	(1)小学校国語科教育の各学年の目標と内容、幼稚園における国語教育を理解する。(2)新学習指導要領(幼稚園要領)のねらいと小学校国語科教育、幼稚園国語教育の内容と関わりについて理科字する。(3)小学校教育の現代的課題と小学校国語科教育内容の関連について理解する。(4)小学校国語科教育内容とカリキュラム・マネジメントの関連について理解する。	○		○	○		○
			○	○	○	○	○	
	社会科内容論	(1)小学校社会科教育の各学年の目標と内容を理解する。(2)学習指導要領のねらいと小学校社会科教育内容との関わりについて理解する。(3)小学校教育の現代的課題と小学校社会科教育内容の関連について理解する。(4)小学校社会科教育内容とカリキュラム・マネジメントの関連について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	算数科内容論	(1)小学校算数科教育の各学年の目標と内容、幼稚園における算数教育を理解する。(2)学習指導要領(幼稚園要領)のねらいと小学校算数科教育、幼稚園算数教育の内容との関わりについて理解する。(3)小学校教育の現代的課題と小学校算数科教育内容との関連について理解する。(4)小学校算数科教育内容とカリキュラム・マネジメントとの関連について理解する。	○		○	○		
			○	○	○			
	理科内容論	(1)小学校理科を指導するのに必要な、観察・実験の授業スキルを習得する。(2)教育実践現場で理科指導に自信を持って臨めるようになる。	○		○	○		
				○	○	○		
	生活科内容論	(1)生活科の目標と内容を説明できる。(2)教育の現代的課題の観点から生活科の教育内容を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	家庭科内容論	(1)小学校家庭科の学習内容を把握し理解を深める。(2)主な単元の教材研究を行い、基本的な知識と理解を深める。(3)小学校家庭科の授業を構想し、具体的な授業展開を提案する能力を高める。	○		○	○		
			○	○	○	○		
	音楽	小学校音楽の指導に必要な音楽に対する感性を高め、子どもの感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○		○	○	○	
			○	○	○	○		
	図画工作	(1)小学校図画工作の指導に必要な、基本的な材料用具の扱い方と技法を身につける。(2)制作の指導方法について理解を深め、子どもへの適切な働きかけができるようになる。	○		○	○		
			○	○	○	○		
	体育	(1)幼児・児童の運動発達と運動遊びの指導について理解する。(2)小学校学習指導要領の体育科の目標と内容について理解する。(3)小学校体育科の授業づくりのポイントと評価について理解を深める。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	
	外国語(英語)の内容論	小学校における外国語(英語)活動・外国語(英語)科の授業実践に必要な実践的な英語運用能力と英語に関する英語教育に必要な背景的な知識を身に付ける。	○		○	○		
			○	○	○	○		○
	国語科指導法Ⅰ	(1)国語科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、模擬授業を行う力を身に付ける。(2)授業実践を通して授業研究の方法について学ぶ。	○		○	○		○
			○	○	○	○	○	
	国語科指導法Ⅱ	国語科指導法Ⅰの学びを踏まえ、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、より実践的な授業力を身に付ける。	○		○	○		○
			○	○	○	○		
	社会科指導法	社会科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	算数科指導法Ⅰ	算数科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	

算数科指導法Ⅱ	算数科指導法Ⅰの学びを踏まえ、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえてより具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、より実践的な授業力を身に付ける。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
理科指導法	理科科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
生活科指導法	生活科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○
音楽科指導法	音楽科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○		○	○	○	
		○	○	○	○	○	
図画工作科指導法	図画工作科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
家庭科指導法	家庭科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
体育科指導法	体育科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
道徳教育の指導法	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解するとともに、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び道徳科における指導計画や指導方法を理解する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○
特別活動及び総合的な学習の指導法	(1)特別活動の目標や内容、特質を理解するー人間形成に果たす特別活動の役割・機能を理解する。(2)学級活動(ホームルーム)運営に必要な事柄を理解するー学級活動の年間指導計画が作成できる。(3)特別活動の評価の在り方(学級活動の評価)を理解するー特別活動各分野の評価の在り方や学級活動の評価の方法を理解する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
特別支援教育	(1)特別の支援を必要とする幼児、児童の障害の特性及び心身の発達を理解する。(2)特別の支援を必要とする幼児、児童に対する教育過程や支援の方法を理解する。(3)障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○		
外国語(英語)の指導法	小学校における外国語活動(中学年)・外国語の学習(高学年)における、指導・評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。	○		○	○		
		○	○	○	○		○
保育・教育課程論	(1)教育課程の歴史的変遷と現在の教育課程の編成、実施、評価を把握する。(2)教育課程編成の方法原理や教育評価について認識し、基礎的能力を獲得する。(3)現在の教育課程の規準(小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育 要領など)と教育課程編成の実際の事例をとおして学ぶとともに、現代社会の課題に向かう教育課程編成の試みを着想する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
教育方法論(ICT活用を含む)	(1)今までに学んできた考え方や経験をもとにこども理解を深め指導技術について教育 データ等を活用した記録や評価ができるようにする。(2)今までに経験したり鍛えてきたことを基盤にして、授業・保育実践を企画し、授業内で 模擬実践し自ら評価する。(3)情報通信技術を活用した教育の理論及び方法について理解し、授業・保育実践に活かす ことができるようにする。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
保育内容総論	保育計画立案の意義、保育方法や援助、保育技能等、保育者としての基本的能力を習得し、子どもを主体とした実践の理解を深める。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
幼児と健康	(1)幼児教育における健康の意義について理解を深め、幼児教育要領の領域「健康」のねらい及び内容を理解することができる。(2)幼児の健康領域に関して、指導をする際に重要な要素を説明することができる。	○	○	○			
		○	○		○	○	

内容・方法	幼児と人間関係	(1)現代の幼児を取り巻く人間関係の課題を理解する。(2)乳幼児の人間関係の発達の姿や援助を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	幼児と環境	(1)幼児を取り巻く環境の諸側面と、幼児の発達における環境との関わり的重要性を理解できるようになる。(2)幼児と環境との関わりについて専門的概念やESDなどの現代的課題について説明できるようになる。(3)乳幼児期の認知的発達の特徴や筋道、幼小の接続を理解した上で、環境を通じた教育についての具体的保育技術を習得する。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	幼児と言葉	(1)子どもが言葉を獲得する過程、一人ひとりの発達に応じた適切な援助や保育者の役割を理解することができる。(2)豊かな言葉を育む児童文化財への関心を高め、活用する力を身につけることができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	幼児と表現	(1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。(2)表現を生成する過程について理解している。(3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	保育内容指導法(健康)	(1)子どもの健康に関する知識を得ると同時に、具体的な実技や保育現場の実践資料などによって、より深く理解する。(2)現在の保育現場にある課題を見つけ出し、解決する方法を考える力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	保育内容指導法(人間関係)	(1)領域「人間関係」のねらいと内容と社会的行動の育ちの道筋を理解する。(2)社会性発達をねらいに据えた保育活動を立案できる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育内容指導法(環境)	幼児の発達における環境の意義と役割を理解することによって、幼児が様々な環境と豊かな関わりをもてるように援助していく力を養う。	○	○	○			
			○	○		○	○	
	保育内容指導法(言葉)	(1)乳幼児期の言葉の発達が理解できるようになる。(2)言葉を育む基礎的知識、技術を習得する。(3)模擬保育や指導案作成を通して具体的保育技術を習得する。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	
	保育内容指導法(表現)	学生自ら表現することから、保育現場で心弾ませて乳幼児の目の高さで、表現豊かに読み、歌い、弾き、心を通わせる保育者としての表現力を身につける。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	乳児保育Ⅰ	(1)乳児保育の意義・目的を理解する。(2)3歳未満児の心身の発達を学び、この時期に携わる保育者の専門性を深める。(3)日本の保育制度、子育て環境の変化、子育ての価値観の変容を交えて学ぶ。(4)保育者間の連携、保護者との連携を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	乳児保育Ⅱ	(1)乳児保育Ⅰで習得した基礎内容から、実践的な技術習得を目指す。(2)乳児の安全な生活、情緒を豊かにする遊び、保護者への連絡方法等について学ぶ。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	障害児保育	(1)障がい特性の理解とかかわり方の基本姿勢を身につける。(2)地域の関係機関の役割や連携方法、保護者支援について理解する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○		
	社会的養護Ⅱ	保育士・児童指導員に求められる養育・支援の基本的技術の体得を目指す。	○	○	○			
			○				○	
	子育て支援	(1)保育士の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、特性と展開を具体的に理解する。(2)様々な場や対象に即した支援の方法と技術を具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	子育て政策論	(1)子どもと家庭に関する多様な施策について幅広い知識をもち、他制度との有機的連携の中に保育サービスを位置付ける視点を習得する。(2)子育て支援が必要な背景と意義、多様な子育て支援の現状とその政策について理解する。	○	○	○			
			○	○	○			○
	保育指導法	子どもの発達と興味関心に応じた保育実践について習得を目指す。	○	○	○			
			○		○			
表現・社会性	音楽の演習(入門)	基本的な楽譜の仕組み、音楽の仕組みを理解し、ピアノや歌唱の演奏を支える基礎的知識と技術を身につけることができる。	○			○	○	
			○	○	○			
	音楽の演習(基礎)	(1)音楽の仕組みを理解して、楽譜を正しく読むことができる。(2)ピアノ演奏の基礎的知識と技術を習得する。	○			○	○	
			○	○	○			
	音楽の演習2A	保育者・教育者としての音楽に対する感性を高め、子どもの感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○			○	○	
			○	○	○	○		
	音楽の演習2B	保育者・教育者としての音楽に対する感性を高め、子どもの感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○			○	○	
			○	○	○	○		
		保育者・教育者としての音楽に対する感性を高め、幼児の感性をも豊かに育てるための表現力を身につける。	○			○	○	

技術	音楽の演習3	物への感情はともなうに育つための力の表れ方と育 につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざ す。	○	○	○	○		
	物語伝達の理論と演習	(1)教材作成の過程で、創造性を発揮して環境 構成の工夫ができるようにする。(2)作品が乳幼 児の情緒の発達に适当であるかを考察し、作品 を通して子ども理解を深めるようにする。(3)教材 作成を経験することで保育者として、児童文化の あり方を理解できるようにする。	○		○	○		○
			○	○	○	○		
	自然とあそびのワークショップ	「遊ぶこと」＝「まなぶこと」を体験し、子どもの内 面の動きに気づく。	○	○	○	○		
			○	○		○	○	
	おもちゃ学演習	こども達の行動分析を行いながら幼児の知能や 情緒形成、認知的発達の仕組みを理解し、今後 の子どもに関わるキャリアにつなげる。	○		○	○		
			○	○	○			
児童文学・絵本	児童文学講義	日本や諸外国の児童文学を学ぶことで、文化や 舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養 い、子どもにとっての文学の重要性を学ぶ。また 実際に作品の一部を読むことにより、作品に描か れる子どもの個性や心情を分析する力を養い、作 者のメッセージを読み取る洞察力を養うことを目 指す。	○			○		○
			○		○			○
	絵本学講義	(1)理念やその歴史、多様な視点やテーマから 「絵本」というものの特性を理解する。(2)1冊の 絵本を丁寧に読み解く視点を身に付け、その深さ を理解し、表現することができる。(3)絵本と子ど も、絵本と社会との関連を考察する力をつける。	○			○		○
			○		○			○
	絵本読み語りの理論と演習1	絵本の世界を子どもたちに伝えるための知識と能 力を養う。	○		○	○		○
			○	○		○	○	
	絵本読み語りの理論と演習2	絵本の世界を子どもたちに伝えるための知識と能 力を養う。	○		○	○		○
			○	○		○	○	
	絵本制作	絵本の鑑賞と制作実技を通して、絵本の持つ意 義、楽しさ、面白さを発見する。	○		○	○		○
			○	○	○	○		
実践演習	教職実践演習(小学校)	小学校教諭養成課程の集大成の必修科目として 学習知と実践知との統合を図り、使命感や責任 感、実践的指導力等、保育者に最小限必要な資 質能力の形成の確認を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	保育・教職実践演習(幼稚園)	保育士・幼稚園教諭養成課程の集大成の必修科 目として学習知と実践知との統合を図り、使命 感や責任感、実践的指導力等、保育者に最小限必 要な資質能力の形成の確認を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
実習	教育実習(初等)	教職課程(幼稚園または小学校)においてこれま でに修得した知識や技術を、総合的に実践する 応用力を養う。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	小学校現場体験	小学校の現場を観察し、実体験をすることによ って、子ども理解を深め、学校教育に関する自己 の課題意識を高める。	○	○	○	○		
			○	○		○		
	こども音楽療育実習	(1)実習を通して、障害児への具体的な援助を考 えることができる。(2)障害児の課題に合わせた 音楽療育プランを作成し、実践できる。(3)事後 指導を通して、自分自身の実習を客観視できる。	○		○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	(1)実習の目的、内容、方法等を具体的に理解 する。実習開始までの事前準備、実習生としての マナー、実習記録の方法、指導計画の作成方法 等を身につける。(2)実習を評価・反省し、実習後 の実習課題を明確にする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習Ⅰ(保育所)	実習を通して、保育の実際を体験的に学ぶ。講義 を通して得た専門的内容を生かして実習に取り組 み、担当保育者の指導を受けながら保育に必要 な知識、技術、態度の習得に努める。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	保育実習指導Ⅱ(保育所)	(1)実習の目的、内容、方法等を具体的に理解 する。実習開始までの事前準備、実習生としての マナー、実習記録の方法、指導計画の作成方法 等を身につける。(2)実習を評価・反省し、実習後 の実習課題を明確にする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習Ⅱ(保育所)	(1)特色ある保育の方法を習得する。担当保育 者の指導を受けながら、こどもたちの興味関心 をくみ取った指導計画を立案し、実践する。(2)保 育者を目指す者として、今後の学習課題を明確に する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ(施設)	(1)居住型児童福祉施設における実習の意義・ 目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。 (2)実習施設におけるこどもの人権と最善の利益 の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解 する。(3)実習の計画・実践、観察、記録、評価に ついて具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習Ⅰ(施設)	(1)居住型児童福祉施設における実習の意義・ 目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。 (2)実習施設におけるこどもの人権と最善の利益 の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解 する(3)実習の計画・実践、観察、記録、評価に ついて具体的に理解する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○

	保育実習指導Ⅲ（通所施設）	(1)居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。 (2)実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。 (3)実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○		
	保育実習Ⅲ（通所施設）	(1)居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする (2)実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。 (3)実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○	○
	幼稚園現場体験	幼稚園の現場を観察し、実体験をすることによって、子ども理解を深め、幼児教育・保育に関する問題意識を高める。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○		
応用	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	子どもの健全育成の考え方と課題を理解する。また、実践の場である児童館・放課後児童クラブの機能を理解する。	○	○	○			
			○			○	○	
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	児童館、放課後児童クラブの活動内容を理解する。年間を通しての活動内容の理解と行事や活動内容の立案と実施ができる。	○	○	○			
			○	○		○	○	
	在宅保育	家庭訪問保育の必要性を理解し、その適切な運用ができる知識と技術を習得する。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	リトミックⅠ	リズム表現する基礎的な動きが出来るようになる。リズム指導における基礎的なピアノ演奏法が出来。指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践出来る。	○		○	○	○	
			○	○	○	○		
	リトミックⅡ	子どもたちと身体全体で音楽を楽しみながら、子どもたちの心と身体のバランスを育み、感覚を磨き、知性の基礎をつくる専門家としての知識を習得する。	○		○	○	○	
			○	○	○	○		
	マナー・プロトコール	社会人として必須のマナーやプロトコール(国際儀礼)に関わる知識と技能の基礎を習得する。	○		○	○		
			○			○	○	○
	こども音楽療育概論	音楽を通して障がいのあるこどもたちの発達の援助を行うための音楽療育に関する基礎および専門知識を得、療育に音楽を使用することの意義について理解する。	○		○	○	○	
			○	○	○	○		
	こども音楽療育演習	(1)障害のある子どもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎知識、専門知識、技術・技能を習得する。(2)発達援助を目的とした音楽の使い方、障害種別、形態別(個別・集団)の療育の具体的な方法を学び、楽曲や楽器の活用法、身体活動と音楽との関連を視野に入れた実践方法	○		○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
こども学海外研修	海外の文化等に触れ幼稚園及び小学校教諭、保育士としての資質の向上を図る。	○	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○	
卒業研究	卒業論文・卒業制作演習ⅠA	自分が興味のある分野に関する先行研究を読んだり、事例研究を行ったりすること等を通して、自分のテーマを導き出していく。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅠB	研究の基礎を習得し、文献を読み解いたり、ディスカッションしたりする等、テーマに関する考えを深化する。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡA	文献や調査、作品制作等を通して、検証を深め、探究活動に取り組む。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡB	受講生各自が、テーマについて研究、検証した事柄についてまとめ、論文、制作の作成に向け、計画を立て、完成を目指す。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
卒業論文・卒業制作	卒業論文・卒業制作演習で学んだことを卒業論文、卒業制作としてまとめる。	○	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○	

2024年度 心理こども学部 心理学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①心理的援助の現場において、人の心を癒し、支える力								
②一般企業での実務に役立つコミュニケーション力や思考力								
③様々な障がいのある児童・生徒を教育する力								
④動物に関わる現場で心理学の知識や技術を適切に運用する力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
学科必修科目	心理学概論	知覚・認知心理学と社会心理学の基礎知識を身に付けること。		○				
				○	○	○		
	臨床心理学概論	心理学(発達分野・臨床分野)の基礎知識を身近な視点から学ぶ。	○		○			
				○	○			
	心理学研究法	卒業論文研究を実施するに当って、自身の研究テーマに沿った適切な研究方法を立案できるようになる。		○				
				○	○	○		
	心理学統計法Ⅰ	各自の卒論研究に際して、適切な統計学的検定を行えるようになる。		○				
				○	○	○		
	心理学実験A	人間のものの見方や考え方、行動、人間関係のしくみなどについて調べるための実験・調査方法、得られたデータの統計的分析、分析結果を客観的に考察してレポートにまとめ方法などについて学ぶ。		○				
				○	○	○		
	心理学実験B	人間のものの見方や考え方、行動、人間関係のしくみなどについて調べるための実験・調査方法、得られたデータの統計的分析、分析結果を客観的に考察してレポートにまとめ方法などについて学ぶ。		○				
				○	○	○		
	心理学演習ⅠA	卒業論文のテーマに関する文献を読み、研究計画を立てる。また、調べてきたものを発表し、討論する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅠB	卒業論文のテーマに関する文献を読み、研究計画を立てる。また、調べてきたものを発表し、討論する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅡA	卒業論文のための調査、実験を行う。また、卒業論文を作成する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
心理学演習ⅡB	卒業論文のための調査、実験を行う。また、卒業論文を作成する。	○	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○	
学科選択科目	発達心理学Ⅰ	子どもの心身の発達の様相と学習の過程を理解する力を養う。また、発達の過程で生じる心身の不適応についても理解する。さらに、様々な障がいを抱えた子どもの心身の発達や学習の過程を理解し、指導・援助のための基本的知識を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	発達心理学Ⅱ	成人以後の生涯にわたる心理的発達の諸理論を理解し、人生上のライフイベントに関わる人間理解を深める。さらに、心理社会的危機にある人々への心理的支援に関わる知識を身につける。	○	○				
			○	○	○	○		
	感情・人格心理学	感情・人格心理学の基礎知識を身につけ、人の性格に対する興味を深めるとともに、より深い他者理解や自己理解を促進すること。		○				
			○	○	○	○	○	
	社会・集団・家族心理学	・対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解する ・人の態度及び行動を理解する ・家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響を理解する		○				
			○	○	○	○	○	○
	神経・生理心理学	脳の基本的構造や働きについて理解を深めつつ、脳の精密さ、生命の神秘に触れ、健康で普通に生活を送ることのできることに感謝や喜びを感じることを目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○			
	倫理学	倫理と公民の基礎的知識を身につけるのみならず、社会生活において実践出来ることを目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○			○
	祈りと心	宗教を、社会や国家、文化におよぶ人間の価値判断の根源として尊重すべき事柄として理解し受容する姿勢を養う。そして、人間相互の絆を回復させる手立てとしても機能する点を理解す	○	○	○	○		
			○	○	○			○

	公民科教育法Ⅰ	中学校社会科や高校地歴科との関連性を踏まえた上で、高校公民科(現代社会、倫理、政治経済)で取り扱う教授内容を適切に理解し、生徒にわかりやすく教材化するための基礎的能力を身につけることを目標とする。	○		○			
				○	○	○		○
	公民科教育法Ⅱ	高等学校公民科の学習指導案・教材づくり、模擬授業とグループでの検討会を通して、授業実践力を高める。	○		○			
				○	○	○		○
公認心理	公認心理師の職責	公認心理師として業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することのできる基礎的態度と適正な指針の獲得を目標とす	○		○			
			○	○	○		○	
	司法・犯罪心理学	犯罪の諸実態を知り、同時に犯罪者の処遇や犯罪被害者の支援についても考察を深めることを目標とする。	○	○				
				○				
	障害者・障害児心理学	定型発達の道筋について理解した上で、生物学的要因、環境要因による発達上の障害について正しく理解することを目標とする。	○	○	○			
			○	○	○			○
	福祉心理学	困窮事態の援助について、社会制度の理解と他の専門職との連携無くしては、援助効果も援助成果も望めないことを理解すると共に、「独りよがりの援助者」ではなく専門的援助者になるための資質を獲得することを目標とする。	○	○	○			
			○	○	○		○	
	心理学的支援法	学生生活を通して相手の話を正しく「聴く」練習や、自分の気持ちを適切に相手に伝える練習をする機会は、殆どない。そこで、この授業では、相手の話を正しく「聴く」ためには、どのようにしたらよいのか、また、自分の気持ちを相手にどのように伝えたらよいのかについて体験的に学ぶことを目的とする。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	音楽療法概論	音楽の効用や音楽療法の手法を知り、臨床場面で対応できる基礎知識を身につけることを目標とする。	○		○			
			○	○	○	○	○	○
	サイコドラマ入門	自分を表現したり、他者の視点や立場を追体験することで、自己理解や他者理解を深め、コミュニケーション力や共感力を育む。	○	○				
			○	○		○	○	
	心理的アセスメント	心理検査の基礎を学び、心理学的な視点から客観的に自己分析する方法を身につけることを目標とする。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	健康・医療心理学	私たちの健康をとりまく社会システムや心理学的諸理論を理解し、自らの健康について深く考え、医療や社会における心理的支援に関わる知識を習得する。また、実際に自らの健康関連行動の変容維持に到達することができることを目	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	教育・学校心理学	スクールカウンセリングの理論と実践についての基礎的な知識と方法論について習得する。 また、現代の学校現場における児童生徒の諸問題および背景に関する基礎的な理解力と実践力を養うことを目標とする。	○		○			
			○	○		○		
	関係行政論	法体系と行政、公認心理師法の理解、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野の専門家と施設、法律と政策を知ることを目 標とする。		○	○			
				○	○		○	
	精神疾患とその治療	精神疾患・精神障がいについての基礎と支援について理解することを目標とする。	○	○	○			
			○	○	○			○
	認知・行動療法	認知行動療法の理論を学び日常生活に活かせるようになる。						
			○	○	○	○		
	プレイセラピー	遊戯療法を実際に実践できるようになる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	絵とイメージの心理療法	イメージを扱う心理療法の基礎についての理解を深める。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	死生心理学	人生で経験しうる様々な死と生の場面に関わる学びを通して、現代社会における課題について理解を深める。また、死に臨む人や死別の悲し	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	心理演習	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野それぞれの分野における具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や相談支援の演習を行うことにより支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチのためのび支援計画の作成ができること目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	心理実習	病院、福祉施設、小学校・中学校等において学外実習を通して、アセスメント、心理相談、チーム連携・職業倫理の実践を学び、公認心理師の業務に必要な心理支援に関して基本的な水準の知識及び技能を習得することを目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	社会学	現代社会を理解するうえで知っておくと大変有用な社会学的なものの考え方の基礎を身に着けることを目指す。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	生活と経済	経済のしくみと課題、経済学の基礎知識を、日常生活と結びつけて理解する。また、授業で学んだことを日常生活の中で活用し、生活者として主体的に経済活動を実践する。	○	○	○			
			○	○	○			○
	社会調査入門	社会調査の結果を読むための知識を習得し、実際に調査を実施する際のポイントをつかむ。		○				
				○	○			

キャリア心理	社会調査法	量的調査研究の一連の流れを理解するとともに、調査結果などの内容についても理解できるようになる。		○				
				○	○			
	消費者行動の心理	消費者行動の心理の諸分野について総説的な知識を得る。		○				
					○			
	心理学統計法Ⅱ	各自の卒論研究に際して、適切な統計学的検定を行えるようになる。		○				
				○	○	○		
	ビジネス学(産業・組織心理学)	組織における個人の行動を理解し、働きがい、ストレス、キャリアなど、職場における心理的な諸問題に対して必要な支援を理解することを目指す。		○				
			○	○	○			
	味と香りの心理学	味覚や嗅覚の脳内処理機構の概要を説明できる。味や香りが日常の生活場面でどのような働きや作用を持っているのかを理解する。食行動の制御における味や香りの役割について概略を説明できるようになる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	色彩心理学	色が私たちの生活において果たす物理的・生物的・心理的な役割について、基礎的な知識を身に付ける。	○	○	○			
				○	○	○		
	社会調査実習A	社会調査の基礎を習得するために、学生自身がチームを組んで、作業を進行する。チームを組織し、協力して目標達成に向けて運営していくための、コミュニケーション能力、リーダーシップやマネジメント能力を獲得する。		○				
			○	○	○	○	○	
	社会調査実習B	社会的課題の発見と調査方法の手順を習得する。		○				
			○	○	○	○	○	○
アニマルセラピー	知覚・認知心理学	知覚心理学・学習心理学・認知心理学における重要事項について理解することを目指す。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	学習・言語心理学	学習心理学・言語心理学における重要事項について理解することを目指す。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	ペットビジネス	グルーミング・トレーニング・看護など、ペットビジネスのスキルを総合的に身につけることを目指す。	○	○	○	○		
			○			○		○
	動物社会学	ヒト以外の霊長類とヒトの行動との相違点や類似点を常に考えること、サルを通して人の理解ができることを実感しながら、論理的思考能力、表現力も向上できることを目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	ドッグトレーニング	どうすれば犬が幸せに暮らすことができるか。そのために飼い主様の犬のしつけに対する相談に応えたり、犬が人とともに家族の一員として仲良く生活できるように、指導・訓練ができるようになることを目標とする。	○		○	○		
			○	○		○		
	アニマルセラピー(ホース)	馬の特性について学ぶ。発達障害のある子どもたちの理解と支援の方法を学ぶ。教育の中で馬の特性を活かす方法を学ぶ。	○		○	○		
			○	○		○	○	
	アニマルセラピー(ドッグ)	実践に通じるアニマルセラピーの基礎を学ぶ。	○	○		○		
			○		○			○
	アニマルセラピー(ドッグ)実践演習	(1)アニマルセラピーとは何か理解する。(2)セラピーに関わる動物への理解を深める。(3)アニマルセラピーの実践的な知識を得る。	○		○	○		
			○		○	○	○	
	動物形態機能学→アニルセラピー論 ↓	犬を中心に、動物の解剖と生理学を学ぶことで、動物看護の基礎を身につける。	○		○	○		
				○	○			
	アニマセラピー論	受講することにより、医療、福祉、教育における動物の役割について理解し、動物介在療法を介入方法の1つの手段として、介助犬を生きた自具の1つとしてとらえることができる基礎知識	○		○	○		
			○		○	○	○	
	小動物臨床看護学	動物病院現場での動物看護の理論と実践を学ぶ。また動物の疾病についての知識を身につける。	○		○	○		
			○	○	○	○		
	動物行動学	動物研究を行う意義と研究手法について理解することを目指す。そのうえで、学んだことを活かした研究について、自分で考えられるように	○		○	○		
			○	○	○	○		
	特別支援教育概論	特別支援教育の概要を理解する。また、特別支援教育に関する理念、制度、対象障害種、特別支援教育の現状と課題について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	知的障害者の心理・生理・病理	知的障害における心理機能の諸特性の理解と発達支援の視点を理解する。知能・言語・社会生活に関する代表的なアセスメントについての知識を習得する。	○	○	○			
				○	○	○		
	肢体不自由者の心理・生理・病理(人体の構造と機能及び疾病)	肢体不自由児・者の発達とその障害について、運動、感覚・知覚、言語、社会性、思考の諸側面から理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	病弱者の心理・生理・病理	病弱児・者への臨床像とその心理・生理・病理的基盤を理解する。病弱児・者の教育的ニーズの心理学的基盤とアプローチを理解する。			○			
			○	○	○	○	○	
	知的障害者指導法	知的障害に関する理解を基本とし、特別支援学校教育課程の理解、個別の指導計画作成を目指す。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	肢体不自由者指導法	肢体不自由に関する理解を基本とし、特別支援学校教育課程の理解、個別の指導計画作成を目指す。	○	○	○	○		
			○	○		○		

特別支援教育	病弱者指導法	病弱児・者の疾病について理解するとともに、その心理特性を把握し、その教育的支援について理解する。			○			
			○	○		○	○	
	視覚障害者の心理・生理・病理	視覚に関する解剖生理、眼疾患の概要を理解する。視覚障害者の心理特性を理解し、支援の在り方を考える。	○	○	○			
			○		○			
	聴覚障害者の心理・生理・病理	聴覚及び音声に関する解剖と生理についての理解を深め、聴覚障害や音声機能障害に関する病態について知る。聴覚に障害のある子どもの心理を多面的に理解し、コミュニケーション手段の実際について知る。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	重複障害・LD等の心理・生理・病理	自閉症、ADHD等の心理・生理・病理の基本的特徴を理解し、神経学的評価や心理学的アセスメント、治療教育の基礎となる理論とその実践について概要を理解する。	○	○	○			
			○			○		○
	視覚障害者の理解と指導法	視覚障害教育における教育課程、自立活動を理解する。実践的指導力の基礎をつくる。	○	○	○			
			○	○				
	聴覚障害者の理解と指導法	聴覚に障害のある子どもの心理を多面的に理解し、発達段階ごとの教育支援課題、現状と課題等について、具体的な教育方法と発展的な知識について理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	発達障害教育方法論	発達障害に関するアセスメント方法について理解する。特性に配慮した教育方法について理解する。	○	○	○	○		
			○			○		○
	こども音楽療育概論	音楽を通して障がいのある子どもたちの発達のな援助を行なうための音楽療育に関する基礎・専門的知識を得て、療育に音楽を使用することの意義について理解することを目的とする。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	○
	こども音楽療育演習	音楽を通して障害のある子どもたちの発達のな援助を行なうための音楽療育に必要とされる演奏および援助技能を養う。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	○
	こども音楽療育実習	音楽を通して障害のあるこども達の発達のな援助を行うための音楽療育に関する実践能力を養成する。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育指導法演習A	実践の中から、自らが見出した課題について議論し、実践力を身に着ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育指導法演習B	実践の中から、自らが見出した課題について議論し、実践力を身に着ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育コーディネーター論	特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。特別支援教育の現状と課題、他機関連携とコラボレーションについて理解する。	○	○	○			
			○	○		○	○	
	特別支援教育実習	教育実習への高い意欲と自覚をもつ。特別支援学校における教科の実践的な指導力を身に付けるとともに、障害のある生徒や学校の実態について深く理解する。教職への適性や課題について自己診断する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文	心理学に関連する研究を行い、学術的な形式の論文としてまとめ、口頭で発表する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○

食文化学部 食文化学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①しっかりと調理技術と理論を身につけ、食文化を総合的に理解できる力。								
②食と健康に関する豊富な知識と問題意識を有し、文化・自然科学的知識に基づいて、素材の特徴を最大限に生かせる調理・加工ができる力。								
③「食」の提供現場で必要とされる経営管理能力と企画し提案できる能力。								
④日本の食文化に関する専門的知識を基盤に世界の食文化を理解し、日本の食文化の発展に結びつけ、寄与することができる力。								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
基本科目	食品衛生学Ⅰ	食品を喫食することによる健康危害となる食中毒一般について理解をし、その主な原因となる微生物についての理解を深め、食中毒を予防できるようになること。		○				
				○	○			○
	食品衛生学Ⅱ	食品を扱う上で、食中毒を予防できるようになる。また、食品添加物の基礎知識を身につけ、その有用性と危険性について考える力をつける。		○				
				○	○			○
	食品衛生学Ⅲ	器具、容器包装の取り扱いや安全性について習得する。また、調理従事者や食品を扱う現場がどのような衛生対策、消毒・殺菌を行うのか、遺伝子組換え食品の種類と安全性、衛生法規についても理解する。		○				
				○	○			○
	食品衛生学実習	食品衛生を身近に感じ、衛生管理の重要性を再確認する。実験操作、レポートの書き方を修得する。		○				
				○	○	○	○	
	栄養学Ⅰ	栄養素の種類と働きを理解する。		○				
			○	○	○			
	栄養学Ⅱ	①栄養素の種類を学び、各栄養素の体内での働きを理解する。②エネルギー代謝に関与する栄養素について理解する。③食品に含まれる栄養素と健康増進、生活習慣病との関係を説明できる。		○				
			○	○	○			
	調理理論Ⅰ	主観的なおいしさについて影響を及ぼす要因について知り、おいしさについての理解を深める。	○					
			○		○			
	調理理論Ⅱ	①調理の基本操作を理解する。②植物性食品の化学・物理的特性を理解し調理による変化を知る。	○					
			○	○	○			
	調理理論Ⅲ	1 動物性食品とその他の食品の調理過程における化学的・物理的特性を理解する。 2 調理操作を行う際の理解を深める。	○					
			○	○	○			
	調理科学演習	調理を行うときの、調理操作や材料、器具、手順、調味料が必要な理由を理解できるように、理論を実践に結び付けられるようにする。	○					
			○	○	○		○	
	食品学Ⅰ	食品の特徴、旬、含まれる成分などについての知識を深め、また、様々な加工食品について学ぶことにより、調理の多様化、省略化に対応し、調理力をつける。		○				
			○	○	○		○	
	食品学Ⅱ	食品の特徴、旬、含まれる成分などについての知識を深め、また、様々な加工食品について学ぶことにより、調理の多様化、省略化に対応し、調理力をつける。		○				
				○	○			
	食と嗜好のサイエンス	調理や食品の加工をする際に役立つ科学的な知識を得ることを目標とする。また、調理師に必要な食品学・栄養学分野の知識を充実させ、栄養学的知識を持った調理師を目指す。		○				
				○	○	○		
	公衆衛生学Ⅰ	1. 公衆衛生の観点から、食生活と健康に関する基本的知識を修得する。 2. 食生活の変化を分析して課題を見つけ、人々の健康を維持し増進するために必要な解決法を学ぶ。		○				
			○	○	○			○
	公衆衛生学Ⅱ	1. 労働衛生に関する基本的知識を修得し、労働災害の防止策を考える。 2. 公害病の歴史や環境衛生に関する基本的知識を学び、課題解決に向けて個人ができることを考える。		○				
				○	○			

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
	パティシエ基礎実習	失敗しないお菓子作り	○					
			○	○	○	○	○	
	基礎調理実習Ⅰ	調理の基礎を身につけ、調理器具を正しく使い、料理についての技術と知識を身につけるとともに衛生面、栄養面での知識を身につけ、実習Ⅱへのスムーズなレベルアップが出来るだけの能力をつける。	○					
						○	○	
	基礎調理実習Ⅱ	調理実習Ⅰに引き続き、基本的な調理技術を習得して「調理師」としての見識と教養を身につける。また、2年次に向けてスムーズな調理実習が実施できるよう、目的に合わせた器具の正しい扱い方を習得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	基礎調理実習Ⅲ	調理実習を通じて「食」に対する興味を深めるとともに、調理師として必要な見識と技術を身につけ、社会における調理現場の仕事を理解する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	専門調理実習Ⅰ	実習中の動き、流れを各自把握できるようになりましょう。	○					
			○	○	○	○	○	○
	専門調理実習Ⅱ	料理の創造力を高めることで新たな知識を身につけよう。	○					
			○	○	○	○	○	○
	専門調理実習Ⅲ	調理師として必要なスキルを身につけ、常に安定した料理を提供できる技術力の習得を目標とする。	○					
			○	○	○	○	○	○
	総合調理実習Ⅰ	集団給食を行うことで実社会での給食業務における、協調性、責任感、向上心を養うとともに、衛生観念、安全管理を身につけ、お客様の満足度を理解し、いかに高めるかの研究心と応用力を習得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	総合調理実習Ⅱ	集団給食を行うことで実社会での給食業務における、協調性、責任感、向上心を養うとともに、衛生観念、安全管理を身につけ、お客様の満足度を理解し、いかに高めるかの研究心と応用力を習得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	食育論	食育論は、これから学ぶ食の入門編である。今まで生きてきた過程で「食」について考えてきた事を更に深めて「食」が人間生活の基本であることを再確認する。そして「食」を大切にする心を養うことを目標とする。		○				
			○	○	○			
	食品アレルギー論	食物アレルギーの仕組み、その原因食品と引き起こされる症状、検査と治療法、低アレルギー食について理解する。		○				
				○	○	○		
	食文化概論	民族、地域、時代、宗教などによって多彩な面をみせる食文化の多様性を理解する。				○		
			○		○			○
	日本文化と食	日本の食文化に影響を与えた諸外国の影響を考慮しながら、未来の日本食のあり方に対する個々人の考えを構築することを目指す。				○		
			○		○			○
	食と生命	「生物学」の基礎知識を身につけ、専門科目をより深く理解する下地を作る。		○				
				○	○			
	パティシエ理論Ⅰ	パティシエの基礎知識習得	○					
			○	○	○	○	○	
	パティシエ理論Ⅱ	製菓製パン材料の種類、特徴、性質にあった基本製法を知る。	○					
			○	○	○	○	○	
	製菓技能士特論	製菓理論を理解し、2級洋菓子製造技能検定合格に向けての知識を得る。	○					
			○	○	○	○	○	
	パティシエ実習Ⅰ	基本である生地を作る・塗る・かける・絞る・切るなど、常に衛生的にできるよう学ぶ。	○					
			○	○	○	○	○	
	パティシエ実習Ⅱ	基本で学んだ生地を作る、塗る、かける、切るなどを常に衛生的で早く、正確にできるようになる。	○					
			○	○	○	○	○	
	パティシエ実習Ⅲ	製菓の意義・目的・製菓操作を理論的に学び、科学的裏付けをもちながら製菓実習を行い、菓子の食生活における意義、菓子と社会、菓子の果たす役割について学ぶ。そしてその知識を活かせるようにする。	○					
			○	○	○	○	○	
	製菓技能士実習Ⅰ	製菓の意義・目的・製菓操作を理論的に学び、科学的裏付けをもちながら製菓実習を行い、菓子の食生活における意義、菓子と社会、菓子の果たす役割について学ぶ。そしてその知識を活かせるようにする。	○					
			○	○	○	○	○	

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
発展科目	製菓技能士実習Ⅱ	2級菓子製造技能士(洋菓子)試験合格	○					
			○	○	○	○	○	
	介護食士演習	高齢者社会の中で経口栄養による「食事」の重要性を理解する。高齢者に食事を提供するために必要な食品、栄養、衛生、また高齢者の身体的特徴、心理的特徴について高齢者の健康や心理を理解し、高齢者向けの調理についての知識と技術を習得する。		○				
			○	○	○	○	○	○
	HACCP・食品安全管理学	HACCPを始めとする国内外の食品安全管理システムについて具体例を交えて理解すること 食品表示検定協会主催食品表示検定(初級)の受験対策を行うこと		○				
				○	○	○	○	○
	HACCPワークショップ	HACCPの知識とHACCPプラン作成能力を身につけ、「HACCP管理者」申請資格を得る。		○				
				○	○	○	○	○
	食品加工演習	実際に加工食品をつくり、その面白さや不思議が起こる原理を知り、自分で美味しく作れることを体験すること		○				
			○		○	○	○	
	食ビジネス概論	経営学に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な問題設定と分析、提言ができる。			○			
				○	○			
	食マネジメント論	財務会計分野の基礎的な項目を理解すること。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定3級に合格するための基本の知識を身に着けましょう。			○			
				○	○	○		
	起業概論	ビジネスプランの基本的な構成要素を理解し、理解に基づいて、協働作業によりアイデアをまとめて、その結果を第三者に伝えられる。			○			
				○	○	○		
	食の企画と演出	絵が描けるようになることで、言葉や文字とあわせより正しく具体的に、自己のイメージを伝えることができるようになります。			○			
			○	○	○			
	店舗デザイン	設計図の基本知識と製図技術を習得し、設計図から空間の完成イメージを正しくつかみイメージボードを作成。自分の企画した店舗をプレゼンテーションできるようになります。			○			
			○	○	○			
	食空間デザイン	自由な発想で「食」を総合的にイメージできるようになる。			○			
							○	○
	食と近現代	革新的であった近現代の食生活の展開過程を理解する。最終課題では、受講生それぞれが、自分の言葉で、日本食の150年史について説明することが求められる。				○		
			○		○			
	食とワイン	基本的な酒類とワインの定義や分類、主な造り方を理解する。実際にワインを抜栓できる。ワインと料理との相性をイメージする。				○		
			○			○		○
	大阪の食と文化	世界から注目される大阪の食文化の特異性について考察し、それぞれが自分の言葉でその魅力を語れるようになることが求められる。				○		
			○					○
	家計と経済	家族・家計にかかわる生活の課題を主体的に解決し、生活を充実向上させる実践的能力を身につける。家族・家計に関する家庭科の授業内容を理解する。		○				
				○	○			
	住まいと暮らし	住生活と住まいの関わり方について理解し、自らが健全な住意識や的確な住要求をもつ。		○				
			○	○	○			
	衣と暮らし	衣服を構成する要素である、素材やその特性、衣服の機能を十分理解して、快適な衣生活を送ることに役立てる。		○				
			○	○	○			
	保育学	子どもの発達を理解し、状況に応じた適切なかわりを習得する。		○				
			○		○			
	衣服演習	身体の動きと衣服の関係を学習し、機能的な衣服を考え、適応する被服材料からの制作や、衣服の構成を理解し、簡単な衣服制作で基本的な知識を身につけ、計画的な作業に取り組む事が出来るようにしましょう。		○				
			○	○	○			

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
資格関係	ブライダルプランナーⅡ	ブライダルプランナー検定1級の取得を目指し、業界に求められる実務知識や接客マナーを身に付ける。			○	○		
			○		○	○	○	○
	家庭科教育法Ⅰ	改訂された新学習指導要領の内容を理解する。家庭科の学習内容および必要な基礎的知識を身につける。家庭科の指導計画が立てられるようになることと、アクティブ・ラーニングが実践できる授業の工夫ができるようになることをめざす。		○				
			○	○	○	○		
	家庭科教育法Ⅱ	年間指導計画の意味を理解し、計画できるようになる。多様な授業形態を学び、学習内容に応じて、生徒主体の授業を計画する力を養う。実技実習を含む授業の教材研究ができる。		○				
			○	○	○	○		
	家庭科教育法Ⅲ	家庭科の学習の目標が理解できる。 学習の主体が生徒であることを見失わず、生徒一人ひとりが主体となって学習でき、実践的に学べる授業を工夫できる。教育実習の研究授業に向けて、学習指導案が書けるようになる。		○				
			○	○	○	○		
	家庭科教育法Ⅳ	分かりやすい授業、効果的な学習方法の選択、生徒の主体的学びが実現できる授業づくりができるようになる。 生徒とのコミュニケーション、よりよい学習集団作りのについても考えることができるようになる。 生徒および学校の特色を生かし、時代の変化に呼応した教育実践が工夫できる資質を培う。		○				
			○	○	○	○		
卒業研究他	食文化演習Ⅰ	各分野に関する知識と理解を深め、研究方法の方法論を学ぶことで来年度に取りかかる卒業研究の基礎を固める。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	食文化演習Ⅱ	各分野に関する知識と理解を深め、研究方法の方法論を学ぶことで来年度に取りかかる卒業研究の基礎を固める。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	卒業研究Ⅰ	卒業テーマを設定し調査する。卒業論文または卒業制作の構成を完成させ進める。		○	○	○		
				○	○	○		
	卒業研究Ⅱ	4年間の学びの集大成として、卒業論文または卒業制作を完成させる。		○	○	○		
				○	○	○		

食文化学部 管理栄養学科カリキュラムマップ

Ⅰ 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、学科の定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次に掲げる能力を有した者に、学士の学位を授与する。								
① 管理栄養士として必要な知識、技能を修得し、主体的に問題解決のできる能力								
② 管理栄養士の立場を自覚し、多職種とコミュニケーションを図りながら連携、協働し、意欲的、創造的に活動できる能力								
③ 教養と思いやりのところをもって人々と接し、食行動と栄養管理について統合的に理解するとともに実践力を身につけ、健康及び医療に対して寄与できる能力								
Ⅱ 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ	①健康と疾病の連続性の理解	○	○	○			
		②健康寿命の延長	○	○	○	○	○	
	公衆衛生学Ⅱ	③個人・集団と自然環境・社会環境の関連性の理解	○	○	○			
		④予防医学での科学と技術の構築	○	○	○	○	○	
	健康管理論	①ライフスタイルと健康観の理解	○	○	○			
		②地域社会における健康観及び一次予防の必要性の理解	○	○	○	○	○	
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	③総合医療保健への拡大	○	○	○			
		①個人の健康管理(セルフ・ケアまたはセルフ・コントロール)	○	○	○			
	解剖生理学Ⅱ	②集団における健康管理	○	○	○	○	○	
		③健康増進に寄与する要因が理解できる。	○	○	○	○	○	
	解剖生理学実験	①細胞の一般的な構造とはたらきを説明できる。	○		○			
		②各器官の機能について説明できる。		○	○			
	解剖生理学Ⅱ	③各器官における構造とその働きとの関連について説明できる。	○		○			
		①体のしくみを調整する各器官の構造と働きについて説明できる。	○		○			
	解剖生理学Ⅱ	②人体の発生過程についての概略を説明できる。		○	○			
		③血液と免疫機構、生体防御についての仕組みを説明できる。		○	○			
	解剖生理学実験	①人体の構造と機能について理解を確実にする。	○		○			
		②実験データを適切に評価して、判断や結果を示すことができる。	○	○	○	○	○	
	解剖生理学実験	③実験結果の考察を通じて自ら考えて動く能力を身に付ける。	○	○	○	○	○	
		生化学Ⅰ	①細胞の構造と機能を説明できる。	○		○		
	生化学Ⅱ		②生体成分の構造及び性質を理解できる。	○		○		
		生化学Ⅱ	③代謝に関わる各酵素と酵素反応の特性を説明できる。		○	○		
	生化学Ⅱ		④遺伝情報の保存と発現の仕組みを理解できる。	○		○		
		生化学Ⅱ	①糖質、脂質、たんぱく質、核酸の代謝過程を説明できる。	○		○		
	生化学Ⅱ		②代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○		
		生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○		
生化学Ⅱ	④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。			○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			
	生化学Ⅱ	③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
生化学Ⅱ		④代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。		○	○			

食 べ 物 と 健 康	食品学Ⅰ	①食べ物と食生活を食物連鎖を含め系統的に整理し、理解できる。 ②現在の食品の分類・整理が理解できる。 ③日本食品標準成分表等の利用上の注意点を知り、活用できる。	○	○	○			
				○	○			
	食品学Ⅱ	①食品成分(5大栄養素)を中心に、化学的構造、特性と健康上の機能について理解できる。 ②一次機能、二次機能、三次機能を理解できる。 ③食品の成分間の反応と生理機能性が理解できる。	○		○			
				○	○			
	食品学実験Ⅰ	①食品の主な成分の化学的性質が理解できる。 ②日本食品標準成分表の一般成分項目が原理を含めて理解できる。	○		○			
			○	○	○	○	○	
	食品学実験Ⅱ	①微量定量法による分析から、栄養の具体的成分の性質、構造が理解できる。 ②機器分析による、より高度な栄養成分分析手技が理解できる。	○		○			
			○	○	○	○	○	
	食品衛生学Ⅰ	①食品衛生法規や食品衛生行政について理解すること。②食を介した様々な健康被害のうち、食品の変質、経口感染症(人獣共通感染症)、食中毒、寄生虫症について理解すること。	○	○	○			
				○	○			
	食品衛生学Ⅱ	①食を介した様々な健康被害のうち、食品中の有害汚染物質、異物混入についての知識を習得し、器具・容器包装の衛生についても理解すること。②食品添加物、食物アレルギー、遺伝子組換え食品についての定義や表示・検査方法、各論について理解すること。③管理栄養士として必要な食の	○	○	○			
				○	○			
	食品衛生学実験	①実験を通して、食品衛生学で学んだ衛生管理手法についての理解を深める。 ②基本的な食品衛生検査の技術を習得する。 ③実験結果を科学的に考察し、レポート作成できる。 ④共同実験における基本的なマナーを身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	食品加工学	①加工食品の製造される原理・プロセスがわかる。 ②食品加工・貯蔵の目的・方法を栄養面、安全面、嗜好面から理解できる。 ③加工食品と関連法規について理解できる。	○		○			
				○	○			
	食品加工学実習	①加工食品の製造原理が理解できる。 ②加工食品の正しい保存方法、鑑別方法が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	食文化論	①国内外の食生活を構成する要因から現代の食生活を形成する文化的背景を理解できる。 ②世界中の様々な食文化について学ぶことで、食生活に対するグローバルな見方をすることができる。	○		○			
			○	○	○	○	○	○
	調理学	①調理の目的や意義を理解し、調理するために必要な調理操作や調理特性について理解できる。 ②調理過程における食品の科学的変化について理解できる。	○		○			
				○	○			
	調理学実習Ⅰ	①調理器具の的確な使用方法がわかり、基本的調理操作ができる。 ②食品成分表を活用して栄養価計算ができ、栄養バランスが理解できる。 ③様式別料理の基本が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	調理学実習Ⅱ	①調理学実習Ⅰで学んだ知識、技術をもとに、より高度な調理操作ができる。 ②新規の食材や伝統的食材を調理できる。 ③栄養バランスのよい献立を作成することができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	調理科学実験	①科学的根拠に基づく合理的調理方法がわかる。 ②栄養性、安全性、嗜好性を高める調理方法の要点の違いが、理解できる。 ③いろいろな調理の場で、最も適切な調理方法が選択できる応用力がついている。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
基 礎 栄 養 学	基礎栄養学Ⅰ	①栄養の歴史、遺伝と栄養の相互関連を理解し、説明ができる。 ②栄養素の消化・吸収を理解し、説明ができる。 ③炭水化物、たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割を理解し、説明ができる。	○	○	○			
				○	○			
	基礎栄養学Ⅱ	①栄養の歴史、遺伝と栄養の相互関連を理解し、説明ができる。 ②栄養素の消化・吸収を理解し、説明ができる。 ③炭水化物、たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割を理解し、説明ができる。	○	○	○			
				○	○			
	基礎栄養学実験	①栄養素の消化が理解できる。 ②栄養素の吸収後の体内代謝について理解できる。 ③基礎代謝量、エネルギー代謝の意味を理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
応 用 栄 養 学	応用栄養学Ⅰ	①栄養ケア・マネジメントの概念・方法を理解している。 ②食事摂取基準策定基礎理論及び活用法を理解している。 ③各ライフステージの生理的特徴とそれに対応した栄養アセスメント、栄養ケアの方法を理解している。	○		○			
				○	○			
	応用栄養学Ⅱ	①加齢に伴う身体構造・生理的特徴に対応した、栄養アセスメント、栄養ケアの方法を理解している。 ②健康増進、疾病予防など健康への影響に関するリスク管理ができる。 ③特殊環境下における栄養ケアの方法を理解している。	○		○			
				○	○			
	栄養と身体活動	①身体活動時のエネルギー代謝や栄養状態の変化を理解し、栄養アセスメントの基本的考え方を修得する。 ②アスリートのパフォーマンス向上のための栄養アセスメント、栄養ケアの方法を修得する。	○		○			
				○	○			

	応用栄養学実習	①各ライフステージの対象者の栄養状態・検査等の情報から、正確な栄養状態の評価ができる。 ②栄養状態の結果に応じた栄養ケアが立案できる。 ③対象者の栄養改善、疾病予防・改善に寄与する栄養素・食品等を提案できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	①栄養教育の概念について知る。 ②栄養教育に用いる行動科学理論及び行動変容技法、栄養カウンセリングについて理解する。 ③栄養教育マネジメントの基礎知識と手順を理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	栄養教育論Ⅱ	①ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について理解する。 ②対象に応じて、QOLの向上を目指した食に関する支援を考えることができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	栄養教育論実習	①個人や集団についての栄養アセスメントができる。 ②栄養の問題について改善目標を立て、栄養教育を計画することができる。 ③効果的な手法や媒体を用いて、栄養教育を展開することができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	栄養教育論演習	①栄養教育に関する知識と技術の理解を深め、課題解決能力や実践力を高める。 ②行動科学理論や行動変容技法、カウンセリング技法の活用について理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
臨床栄養学	臨床栄養学総論	①臨床現場となる医療・福祉等の各分野における、栄養学の意義や目的、理念、位置付け等が理解できる。 ②臨床現場において実践される栄養ケア・マネジメントシステムを活用していく医療者としての在り方や倫理について理解できる。	○		○			
			○	○	○			
	臨床栄養学各論Ⅰ	①臨床現場における栄養ケア・マネジメントや栄養指導の実践について、様々な疾患に応じたアプローチの方法を理解できる。 ②生活習慣病について、病態や栄養生理代謝と食生活の関係を理解し一次予防の提案ができる。	○		○			
			○	○	○			
	臨床栄養学各論Ⅱ	①各疾患の発生機序・病態生理・臨床症状について復習しながら、複雑に絡み合った疾患に対して適切な食事・栄養療法ができる。 ②栄養ケア・マネジメントにより疾病の治療や合併症、再発を防止の為に二次予防、三次予防の提案ができる。	○	○	○			
			○	○	○			
	臨床栄養マネジメント論	①患者の栄養状態の原因や兆候を明確にしながら栄養状態を判定できる。(栄養評価・栄養診断) ②国際標準化された用語を用いて栄養ケアプランの作成ができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	臨床栄養学実習Ⅰ	①疾患に対し適切な栄養ケア・マネジメントや栄養指導を行うために、具体的な症例についてSGA、ODAにもとづく実践的な栄養アセスメントができる。 ②同様に具体的な症例について、栄養ケアプラン作成と評価ができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨床栄養学実習Ⅱ	①病態別に応じた栄養・食事管理のための食事療法が計画できる。 ②摂食嚥下のレベルに応じた食形態や摂取方法の立案ができる。 ③①、②に応じた特別治療食が調理できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	①わが国の健康・栄養問題 ②公衆栄養活動における栄養疫学の活用方法 ③食事摂取基準の地域集団への活用 ④国民健康・栄養調査の概要や最近の結果、年次推移等について理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	公衆栄養学Ⅱ	①公衆栄養関連法規とわが国の栄養政策との関連 ②健康づくり施策と公衆栄養活動の役割 ③行政における管理栄養士の業務 ④公衆栄養マネジメントプログラムの目的や方法、展開等について理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	公衆栄養学実習	①公衆栄養活動の実践に必要な公衆栄養プログラムが作成できる。 ②管理栄養士として、地域・職域における総合的な公衆栄養マネジメントについて理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	①特定給食の対象と特徴を理解し、栄養・食事管理のための計画・生産・サービスを行う知識と技術を学ぶ。 ②栄養・食事管理及びサービスを運営するためのシステムの構築とマネジメントを行うための知識を修得する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	給食経営管理論Ⅱ	①栄養管理、給食管理、安全・衛生管理についての知識やマネジメントについて説明できる。 ②特定給食施設毎の栄養管理、給食管理が説明できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅰ	①特定給食施設の栄養・食事管理における立案・計画・評価ができる。 ②安全で衛生的な食事サービスが説明できる。 ③食材の流通と生産工程が説明できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅱ	①特定給食施設の特性と対象に合わせた献立作成できる。 ②特定給食施設の特性を把握し、業務日誌の作成、給与栄養量や残食調査等の報告書が作成できる。 ③給食での提供した食事の評価と修正ができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	

総合演習	総合演習Ⅰ	①目的意識を持って、意欲的に実習に臨む。 ②管理栄養士業務の現場を知り、現場での判断や課題解決を行う能力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	総合演習Ⅱ	専門分野を横断して管理栄養士に必要な知識や技術を理解し、栄養評価や管理が行える総合的な能力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	①栄養部門の役割と組織を把握する。 ②給食経営を行うために必要な食事計画・栄養管理がどのようにされているか理解する。 ③調理を含めた配食サービス提供を把握する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅱ（給食経営管理）	①実習施設における栄養部門の役割と組織を理解し、人事労務管理を把握する。 ②給食経営を行うための食事計画や配食サービス提供がどのようになされているのか理解する。 ③給食経営を行うための財務管理の実際を学習する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	①保健所および市町村保健センターにおける公衆栄養活動について理解できる。 ②公衆栄養活動が、公衆栄養マネジメントサイクルにより実施されていることが理解できる。 ③行政管理栄養士の業務とその役割が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	①医療機関における栄養部門の役割や組織を知る。 ②管理栄養士に求められる知識、技能、考察力、判断力等の栄養ケアマネジメントに関する専門的能力を養う。 ③チーム医療の必要性、他職種との連携、患者とのコミュニケーション、接遇態度等総合能力を養う。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
専門関連科目	有機化学	有機化学の基礎からスタートして、食品および食品関連成分の有機化合物としての特性を理解する。さらに食品の品質評価や安全性確保に利用されている機器分析の基本原理に関する知識を身につけることを目標とする。	○	○	○			
			○	○	○			○
	日本文化と食	日本の食文化に影響を与えた諸外国の概況との比較検討を通して、日本の食文化の特質を理解している。	○		○			
			○	○	○	○	○	○
	フードランゲージ	食文化・食行動についての知識や技術を外国語を通じて理解しながら、調理・製菓および栄養管理の現場で使われる外国語の基礎を習得している。	○	○	○			
					○	○		○
	卒業研究Ⅰ	食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、また学科の定めたカリキュラムを履修したことの集大成として、学習理解に基づく研究を行う。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	卒業研究Ⅱ	食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、また学科の定めたカリキュラムを履修したことの集大成として、学習理解に基づく研究を行う。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	管理栄養士演習	専門分野を横断して管理栄養士に必要な知識や技術を理解し、栄養評価や管理が行える総合的な能力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	調理学実習Ⅲ（調理学発展実習）	調理学実習ⅠおよびⅡで学んだ基礎的調理技術をもとに、病院、社会福祉施設、集団給食施設で栄養バランスと美味しさ、また文化や風土を見据えた応用的な調理技術や調理のコツを習得している。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	学校栄養教育概論	①栄養教諭の成り立ちや制度など、基本的事項について理解できる。 ②栄養教諭に何が求められているかを考え、実践する力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	学校栄養指導論	①学校教育活動における食に関する指導について理解する。 ②食に関する指導の実践力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○

2024年度 看護学科のカリキュラムマップ

I 学科の到達目標 (DP:ディプロマポリシー)									
①社会に貢献できる人に求められた教養と人間性、高い倫理観に基づく看護を実践する基礎的な力。									
②人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎的な力。									
③根拠に基づき臨床判断し、課題に対応できる基礎的な力。									
④地域で生活する人々の生涯を通じて、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、やすらかな死にかかわる看護を実践する基礎的な力。									
⑤多職種チームにおける看護の役割を理解し、地域で生活する人々の課題解決に向けて連携・協働できる基礎的な力。									
⑥グローバルな視野をもち、多様な文化の理解を踏まえ国内外における看護実践に必要な基礎的な力。									
⑦看護学の発展に貢献しうる創造的・科学的探究心と生涯にわたる自己研鑽のための基礎的な力。									
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例							
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号						
			上段 :到達目標 (DP)						
			下段: 梅花女子大学で身につける6つの力						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	生涯発達心理学	発達段階に照らし合わせて、精神的発達の問題が理解でき、その支援方法について議論できるようになる。	○		○		○		
				○	○				
	健康教育論	1. 健康教育の目指すものを理解し、その重要性を認識する。 2. 健康教育を支えてきた理論とモデルを理解する。 3. 健康教育の展開方法について考えることができる。 4. 効果的な健康教育のあり方について考えることができる。	○	○	○	○	○		○
				○	○	○	○		
	精神保健学	精神保健学は精神看護の基本となる広い領域に関係しているので、常識的事柄を含め幅広く心の健康について理解する。狭義の科学よりも人間学の一部門として、また社会学の一部門としての興味をもって積極的に教科書以外の人文的知識も身につける。	○	○	○	○	○		
			○	○	○				
	衛生学	健康障害の防止や健康の保持増進のために必要な方策について学習し、疾病予防や健康の維持・増進にとって必要な知識とその科学的証拠について理解する。	○	○	○	○		○	○
			○	○	○	○		○	
	公衆衛生学	公衆衛生学の意義を理解し、保健統計資料を活用できるようになり、地域における医療・保健・福祉の取り組みについて議論でき、地域での健康づくり活動を考案できるようになる。				○	○		○
			○	○	○	○	○	○	
	保健統計学	保健統計の基礎を学び、Excelを用いて仮説検定ができるようになる。					○		○
			○	○	○	○	○	○	
	生化学	・生体成分の基本的な構造と機能を知る。 ・遺伝情報の保存と発現の仕組みを理解する。 ・多細胞生物におけるシグナル伝達の仕組みを理解する。			○				
			○	○	○	○			
	栄養学	種々の疾患を持つ患者の食事について学び、適不適の食事が判断できるようになる。	○		○	○	○		
			○	○	○	○		○	
	薬理学	・薬と標的分子との相互作用およびそれにより生じる現象を分子から個体レベルの観点で説明できる。 ・各組織・器官における情報伝達システムの原理と疾患の病態発現機序を理解し、その治療薬の作用機序および副作用を説明できる。 ・薬物療法における看護師の役割および医薬品の正しい使用法を具体的に述べることができる。	○		○				○
			○	○	○	○		○	
	免疫・微生物学	・微生物とはどのようなものなのかを理解する。 ・微生物の種類を説明できる。 ・感染と生体防御について説明できる。 ・感染症の診断と治療について具体的に説明できる。 ・医療現場における感染症予防について具体的に説明できる。 ・主な感染症と原因病原微生物について説明できる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○		○	

形態機能論Ⅰ	人体の素材としての細胞や組織の構造と機能、さらに、運動器系、消化器系について学習し、人体がどのような構造と生理機能を持っているかを理解する。	○		○	○			
		○	○	○	○			
形態機能論Ⅱ	循環器系、呼吸器系、血液、呼吸器系、腎・泌尿器系について学習し、人体がどのような構造と生理機能をもっているかを理解する。	○		○	○			
		○	○	○	○			
形態機能論Ⅲ	主として内分泌系、神経系、感覚器系、生殖器系について学習し、人体がどのような構造と生理機能をもっているかを理解する。	○		○	○			
		○	○	○	○			
臨床病理・病態学Ⅰ	主要な疾患の病態理解が看護の現場において必要となる理由を考察できる。	○	○	○				○
		○	○	○	○			
臨床病理・病態学Ⅱ	外科手術の基礎的知識を習得し、看護師国家試験に合格できる知識を習得するのみならず、実際の臨床の場でも対応できるだけの知識を習得する。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○			
臨床病理・病態学Ⅲ	(小児科学) 1. 小児の成長発達の理解 2. 代表的疾患の理解 3. 日常生活での健康支援 4. 小児医療における倫理的考察 5. 患児家族と信頼関係の構築 (産婦人科) 1. 女性生殖器の構造と機能について理解し、起こりうる症状とその病態について説明できる。 2. 婦人科疾患について理解し、必要な診察や検査・治療について説明できる。			○	○			
		○	○	○	○			
キリスト教の看護と倫理Ⅰ	1. 看護倫理の概念について説明できる。 2. キリスト教と看護、キリスト教と倫理の関連を知る。 3. 現代の看護における倫理的課題の特徴を知る。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
キリスト教の看護と倫理Ⅱ	1. 看護倫理に関する主要な概念について説明できる。 2. グループワークを通して、患者や家族、医療者に起こる倫理的問題について考えることができる。 3. グループワークにて、自己の意見が発表でき、他者の意見から自己の考えを深めることができる。 4. キリスト教と看護・倫理についての自己の考えを述べることができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
文化人類学	文化人類学の「ものの見方」を、自分たちの日常生活と結び付ける形で理解できるようになるとともに、文化人類学と医療とのつながりについて理解することを目指します。	○		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
社会福祉論	社会福祉・社会保障についての仕組みと、生活に根ざしたケアのあり方について理解する。	○		○	○	○		
		○	○	○	○	○	○	
保健医療福祉行政論Ⅰ	保健福祉行政の仕組みや政策の変遷について理解する。公衆衛生や社会福祉行政サービスのあり方を学ぶ。行政制度の特色を踏まえ、地域保健法に基づく今後の動向と活動を展望する。保健医療福祉施策の基礎的な知識及び技術を学ぶ。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
看護学概論	1. 看護の対象である人間と健康、環境について及びそれらの関連を述べることができる。 2. 看護の歴史の変移や世界的動向を理解できる。 3. 看護の機能・役割について自己の考えを述べることができる。 4. 看護を行う者としての責務を考え、看護職者に必要な倫理的態度について理解できる。 5. 看護について自己の考えを述べることができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
基礎看護援助論Ⅰ	1. 看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について技術の理論と技法を修得する。 2. 援助方法の根拠を述べることができる。 3. 対象者へのプライバシー保護や配慮を考えることができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	
基礎看護援助論Ⅱ	1. 診療に伴う看護技術について、手技の根拠を述べるができる。 2. 診療に伴う看護技術を実践することができる。 3. 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面を考えることができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	

医療コミュニケーション論	1. 医療現場における人間関係とコミュニケーションの重要性について説明できる。 2. 看護に必要なコミュニケーション技術について説明できる。 3. グループ活動において効果的なコミュニケーション技術を活用することができる。 4. 実習場面を通してコミュニケーションの技法や自己の特徴を振り返り、今後の課題を述べることができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	
看護過程論	1.情報をアセスメント項目別に分類する。 2.情報を解剖生理学、病態生理学等の知識に基づき解釈・分析できる。 3.関連図を通して対象者を多角的に捉えることができる。 4.看護問題を明確にできる。 5.看護計目標を設定できる。 6.看護計画を立案できる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○			
フィジカルアセスメント	1.フィジカルアセスメントの必要性が理解できる。 2.フィジカルイグザミネーションの5技法について理解できる。 3.系統別のフィジカルイグザミネーションの方法について理解できる。 4.解剖生理学、病態生理学等の知識を用いてフィジカルイグザミネーションの結果からアセスメントできる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○			
看護過程と フィジカルアセスメント演習	1. 呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)技術を習得する。 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメントの技法を修得する。 3. 診察を受ける対象者の配慮ができる。 4. 看護過程の展開における情報収集・整理、情報の分析(病態アセスメント、生活上のニーズのアセスメント)、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、看護過程の評価方法を修得する。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○		
基礎看護学実習Ⅰ	・看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 ・看護の対象となる人の療養環境と入院生活を知り、入院生活などに対する思いを理解する。 ・看護の場面を通して、看護師の役割およびその他の専門職者によるケアの実際を知る。 ・看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護について自己の考えをまとめ、今後の自己の課題を見出すことができる。 ・看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	
基礎看護学実習Ⅱ	・対象者とコミュニケーションを取り、望ましい人間関係を形成することができる。 ・既習の知識を活用した観察と情報収集、アセスメントにより看護上の問題を抽出することができる。 ・対象者への安全・安楽、個別性、自立を促す看護援助を科学的根拠、看護倫理に基づいて、計画立案・実践・考察(評価)することができる。 ・主体的に取り組み、看護者に求められる態度を養うことができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	
急性期看護学概論	1. 麻酔や手術による患者の身体的変化(生体反応、機能障害、形態変化)を説明できる。 2. 手術を受ける患者の心理的・社会的変化を説明できる。 3. 患者及び家族が最良の状態で手術を受けられるよう、心身を整える援助を説明できる。 4. 術後経過に応じた観察の視点と合併症予防のための援助を説明できる。 5. 機能障害・形態変化による退院後の日常生活への影響と、支援方法について説明できる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○				
慢性期看護学概論	1.成人期の発達段階と身体的および心理社会的特徴を説明できる。 2.成人期に生じやすい健康障害を説明できる。 3.慢性疾患を持ちながら生活する対象者の健康障害の特徴を説明できる。 4.慢性疾患による健康障害を管理するセルフケア能力について述べることができる。 5.慢性疾患を持ちながら生活する対象者とその看護を理解するための理論の概要と活用を述べることができる。	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○			

急性期看護援助論	1. 情報の整理、アセスメント、看護問題の抽出、計画立案による病態の理解や看護の知識を得ることができる。 2. 看護過程のプロセスを記録に表現することができる。 3. 対象者の状態に合わせた術前・術後のケアを立案することができる。 4. 周手術期に必要な観察や援助を実施できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
慢性期看護援助論	1.臨床判断モデルを理解し事例を用いて適用できる。 2.慢性疾患を持つ対象者のコアとなる病状や病態が理解できる。 3.慢性疾患を持つ対象者の心理社会、スピリチュアルな側面の理解ができる。 4.対象者の看護問題を導き出す関連性が示せる。 5.慢性疾患を持つ対象者の具体的援助方法を考案し評価できる。 6.エンドオブライフケアについて援助方法が検討できる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○		
急性期看護学実習	1. 周手術期にある患者とその家族を総合的に理解できる。 2. 患者及び家族が最良の状態です手術を受けられるよう、心身を整える援助を実施できる。 3. 受け持ち患者の手術を見学し、手術による生体反応や機能障害を予測し、合併症の予防・早期発見に必要な援助を実施できる。 4. 退院に向けて患者の状態に応じて日常生活の調整を行い、社会復帰に向けた援助を実施できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
慢性期看護学実習	1. 成人期の発達段階・発達過程を踏まえ、慢性期・終末期にある患者の全体像を捉えることができる。 2. 慢性期・終末期にある患者のニーズ、症状緩和、セルフマケア、QOLの維持・向上を考慮した看護が実践できる。 3. 医療チームにおける看護師の役割を理解できる。 4. 将来の看護職者としてのふさわしい態度および倫理観が育成できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
老年看護学概論	1. 老年期を生きる意味と価値について多角的に捉えることができる。 2. 老年期の発達課題の特徴を理解できる。 3. 超高齢社会における高齢者の社会的課題について理解できる。 4. 高齢者の健康的な生活を支援するための保健医療福祉制度を理解できる。 5. 現代社会における老年看護の役割とその重要性について理解できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
老年看護援助論	1. 高齢者によくみられる疾病と症状の特徴を理解できる。 2. 健康障害を持つ高齢者の看護上の課題を考察し看護計画を立案することができる。 3. 身体機能障害などによって生活能力の低下した高齢者に対する基本的な日常生活援助について理解できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
老年看護学実習	1. 高齢者の特徴を踏まえて、健康上の問題が生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 高齢者のニーズを踏まえ、安全・安楽・自立(自律)に配慮した系統的アプローチ(看護過程の展開)ができる。 3. 高齢者看護における倫理的課題について考えることができる。 4. 高齢者看護に求められる基本的態度について考えることができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
母性看護学概論	1. 母性看護の概念、リプロダクティブヘルス／ライツの視点を理解できる。 2. 女性身体の形態・機能の特徴を説明できる。 3. わが国の母性看護の変遷と現状を理解できる。 4. 母性看護における法的倫理的課題と責任について理解できる。 5. 女性のライフサイクル各期における健康課題と看護について理解できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
母性看護援助論	1. 周産期にある対象とその家族に必要な支援を行うための基礎的知識と技術を修得する。 2. 事例を用いてアセスメント能力を養い、看護上の課題をウェルネスの視点で解決するための思考を学ぶ。 3. ハイリスクな状態にある周産期の対象への看護について理解する。 4. 母性看護の対象における倫理的配慮について理解する。 5. 自らの母性について関心を深める。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	

母性看護学実習	1. 女性のライフサイクルにおける特徴、および対象（特にマタニティサイクルにある母と児とその家族）の身体的、心理的、社会的な変化を理解し、健康課題・問題を明確にして、対象に必要な看護について考察できる。 2. 対象が活用できる社会資源および、対象を取り巻く保健医療チームにおける看護職者の役割について考察できる。 3. 対象の尊厳、人権、プライバシーに配慮した態度をとることができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	
小児看護学概論	1)小児看護の対象とその特徴を理解できる。 2)小児医療や看護の変遷、子どもを取り巻く現代社会の特徴や家族機能について理解できる。 3)小児看護における倫理的配慮、子どもの権利や子どもを守るための法律や制度について理解できる。4)子どもの成長・発達過程と発達課題について理解できる。 5)子どもの安全、発達段階に応じた日常生活の援助、必要な養護について理解できる。	○	○				○	○
		○	○	○	○	○	○	
小児看護援助論	1. 子どもによくみられる疾患と適切な看護について理解できる。 2. 成長発達を踏まえた小児看護過程を理解できる。 3. 疾患理解に基づく看護ケアの理解と実践ができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
小児看護学実習	1. 小児の成長発達、日常生活、心理・社会的特徴、各発達段階、発達課題を理解する。 2. 小児の援助に必要な知識、技術、態度、方法を学び、遊びの必要性を理解する。 3. 小児と家族、取り巻く環境、地域との関連、権利擁護と倫理的配慮を理解する。 4. 健康障害をもつ小児の疾患、治療や看護、家族への影響を理解する。 5. 小児の健康障害の程度、発達段階に応じた看護、事故・感染防止対策を理解する。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
精神看護学概論	基礎的な精神看護知識を用いて対象者(患者)を全人的に捉え、必要な看護(基礎看護)について検討することができる。具体的には、①基盤理論や倫理的側面を理解する。②精神看護におけるコミュニケーション技術の基本を学ぶ。③精神疾患の基礎とその看護について理解する。④地域における看護支援について学ぶ。⑤精神医療看護を取り巻く環境(歴史的変遷含む)を学ぶ。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○			
精神看護援助論	精神科看護過程や多職種連携による支援(病院・地域)の在り方を検討する。具体的には、①精神看護における、対象者理解や信頼関係構築のためのコミュニケーション技術を身につける②精神科看護過程の基本について理解する。③精神看護の基礎知識(法律・制度も含め)を用いて、事例検討や、倫理カンファレンスを実施できる。④実習シミュレーション等をおして、自身の実習課題や補足すべき知識・技術を明確できる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○			
精神看護学実習	1. 対象者を包括的に捉えリカバリに向けた支援を考える。 2. 精神科治療や看護の実際を理解し対象者との信頼関係を構築しながら病棟における基本的看護を実践する。 3. 倫理観を養い、対象者の安全や人権擁護に基づく基礎的看護を実践する。 4. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムや多職種連携の実際について考える。 5. 精神保健医療に関連する法律や社会資源活用に基づく支援の実際について考える。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○		
在宅看護学概論	1. 在宅看護の目的・対象・理念について述べるができる。 2. 在宅療養者の特徴や地域生活を支える社会資源について述べるができる。 3. 自分らしい生活とその生活を実現するための在宅看護活動について自分の意見を述べるができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
在宅看護方法論	1. 在宅でその人らしい生活を実現するための看護の役割・機能を述べるができる。 2. 在宅療養者とその家族への基本的な援助方法を説明することができる。 3. 在宅看護過程の展開方法を説明することができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
地域生活実習	地域住民とのコミュニケーションを通して、看護の対象を生活者として理解し、地域の環境(自然・文化)が対象者の生活や健康に与える影響について理解することができる。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	

在宅看護学実習	1. 在宅療養者とその家族の尊厳と権利を尊重し、看護に必要な態度を身につけることができる。 2. 在宅療養者とその家族を生活者として多角的にとらえ、問題を解決するための援助の方法を理解できる。 3. 在宅療養者の生活を継続するために必要な社会資源の活用方法と、関係する職種との連携・協働の実践を理解できる。 4. 在宅ケアにおける看護職の役割と課題について考えることができる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
公衆衛生看護学Ⅰ	公衆衛生看護学の理念、特徴を理解する。地域で生活する人々の健康と環境とを関連づけて考えることができる。公衆衛生看護の対象と活動の場について理解する。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○		
看護研究方法論	看護研究の意義の理解と研究課題の明確化、倫理的配慮について考えることができる。 看護研究を行うにあたっての、必要な知識と技法、デザインの立て方などが身につく、データ収集し、データを分析・解釈し、結果を研究レポートにまとめることができる。	○	○	○				○
		○	○	○	○	○	○	
看護研究演習	1. 文献を検索できる。 2. 検索した文献について吟味できる。 3. 吟味した文献の要旨を述べることができる。 4. 吟味した文献の結果をまとめることができる。 5. 明確になった研究課題について述べるができる。 6. 研究課題について研究計画書を作成できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
総合実習	1. 自己の学習課題を明確にし、実習に取り組める。 2. 管理職者の役割を学ぶ。 3. 複数の対象や事象(多重課題)に対し、主体的に実習に取り組む事ができる。 4. 医療安全対策と危機管理体制の実践を知る。 5. 保健医療福祉チームの一員として看護職の役割を学ぶ。 6. 専門職として倫理について考えることができる。 7. 総合実習を通して、今後の自己の課題を明確にする。	○	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○	
グローバルナースィングⅠ	グローバル・ナースィングⅠで学んだ知識や関心を深めます。 1. 国際看護の基本概念について説明することができる。 2. 世界の現状と健康課題との関連について説明できる。 3. 日本における多文化共生と看護の役割について考えることができる。 4. グローバルビジョンに基づいた看護について考えることができる。 5. 基礎的な英語力を用いて、国際看護活動に必要な知識や情報を得たり発信できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
グローバル・ナースィングⅡ	1. 解等)について説明することができる。 2. 世界の現状(政治経済や環境資源等)と健康課題との関連について説明できる。 3. 日本における多文化共生と看護の役割について考えることができる。 4. グローバルビジョンに基づいた看護について考えることができる。 5. 基礎的な英語力を用いて、国際看護活動に必要な知識や情報を得たり発信できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
災害看護学Ⅰ	1. 災害の種類や災害医療の特徴、災害時の情報システムが理解できる。 2. 災害関連法規と災害サイクルおよび各期の看護について説明できる。 3. トリアージの種類と方法について説明できる。 4. 災害時のこころのケアについて理解できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
災害看護学Ⅱ	1. 災害時要援護者に対する看護が説明できる。 2. 原子力災害やNBC災害に関する支援が理解できる。 3. 災害時の遺族に対する支援が説明できる。 4. 災害時のストレスと支援者支援について理解できる。	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	
感染看護論	1. 感染の成立の機序を理解し、段階ごとの感染対策を説明することができる。 2. 標準予防策、経路別予防策の概念を説明することができる。 3. 臨床現場で発生する可能性が高い感染症発生時の対応策を説明することができる。 4. 流行性疾患の潜伏期間、感染防止対策を理解することができる。 5. 医療従事者の職業感染防止対策を理解することができる。	○	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○	

	家族看護学	1. 家族看護とは何かについて説明できる。 2. 家族のとらえ方について学習し、家族アセスメントを理解する。 3. 健康上の課題が患者と家族に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	看護管理論	1. 看護管理・組織マネジメントについて説明できる。 2. 看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる。 3. 生涯学習とキャリアデザインについて自分の考えを述べることができる。 4. 安全管理について説明できる。 5. リーダーシップ、メンバーシップの必要性を理解し、組織の人々と関係性を築く必要性を説明できる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	助産論	1. 助産の概念、助産の歴史、助産師の専門職性と役割、日本および世界の助産師の活動状況、助産師の法的責任と倫理について理解する。 2. 各種助産師養成課程およびカリキュラムの特徴を理解する。 3. 性と生殖の健康に関する最新の知見について、自分の意見を述べることができる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	臨床判断能力入門	1. 既習の解剖学、生理学などの知識を用いて生活する人の生理的ニーズを理解できる。 2. 生活する人について呼吸と循環、摂取と排泄、活動と休息の側面から説明できる。	○	○	○				
			○	○	○				
	臨床判断能力展開	1. 臨地実習での実践場面を振り返り、その時の気づきや解釈を整理することができる。 2. 解釈の意味づけや根拠を理論的知識や、臨床的・実践的知識を用いて説明することができる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	看護教育学	1. 看護教育について自己の考えを述べることができる。 2. 看護教育制度の歴史的変遷を理解することができる。 3. 看護学教育における倫理について自己の考えを述べることができる。 4. 看護教育目標・計画立案・教育評価の立案の仕方を理解することができる。 5. 成人教育における教育者としての役割について述べることができる。 6. 今後の自己の学習姿勢について考えることができる。	○	○	○		○		○
			○	○	○	○	○		
	エンドオブライフケア論	1.緩和ケアの歴史、緩和医療の在り方や今後の方向性、看護職者としての姿勢の在り方を考えることができる。 2.エンドオブライフにおける対象者の全人的苦痛(トータルペイン)の理解ができる。 3.全人的苦痛(トータルペイン)の病態やメカニズムを踏まえた看護の在り方を考えることができる。 4.エンドオブライフにおける各病期での看護の在り方(アドバンスケアプランニングを踏まえた)を説明できる。 5.エンドオブライフにある家族への悲嘆(グリーフ)を踏まえた援助の在り方を考えることができる。 6.エンドオブライフ期における倫理的課題が検討できる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○	
養護に関する科目	学校保健	・学校保健の基本的な事項および各領域の概要と現代的な心身の健康課題を理解する。 ・チームとしての学校で取り組むこと、ヘルスプロモーションの視点を取り入れた学校保健について理解する。 ・学校保健に関する関心を広げ、問題意識を高めることの重要性を認識する。	○	○	○	○			
			○	○	○				
	養護概論	・養護教諭の職務について全体的に理解する。 ・保健教育・保健管理・組織活動について理解する。 ・保健室経営について考察する。	○	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○	
	健康相談の理論及び方法	・健康相談の法的根拠、目的・基本的プロセス等を理解し、基本的な知識・技法を身につける。 ・関係者が連携して問題の解決を図ることの重要性を認識する。 ・各モデル事例について内容を理解し、児童生徒の気持ちに寄り添った対応を習得する。	○	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○	

保健師課程に関する科目	産業保健学	・産業保健の目指すものを理解し、その重要性を認識する。 ・産業保健の動向と現状を理解し、健康課題を認識する。 ・産業保健の推進体制と推進活動に係わる基礎知識を習得する。 ・産業保健における看護職の役割と職務を理解する。	○	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○		
	公衆衛生看護学Ⅱ	1. 地域で生活する住民への保健指導・健康相談のポイントが説明できる。 2. 住民の健康と自然、社会、生活環境との関連を説明できる。 3. 公衆衛生看護活動の基本となる地区視診の計画、実施、評価の方法を説明できる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○		
	公衆衛生看護活動論	1. 発達段階、疾病・障害によって生じる対象者の健康課題に応じた支援方法が説明できる。 2. 住民を対象とした保健指導・家庭訪問の特徴を説明できる。 3. 新生児訪問の家庭訪問での観察ポイント、看護計画・実施・評価方法を説明できる。	○	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○		
	公衆衛生看護学実習	地区踏査により地域の生活実態から健康課題を考え、健康課題と各種保健活動とのつながりを理解し、健康課題の解決方法を考えることができる。家庭訪問や健康教育を実施し、個人・家族・集団への支援方法を理解する。また、実習全体を通して行政機関における公衆衛生看護活動である地区活動の展開方法について理解する。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	産業保健学実習	* 公衆衛生看護学実習・産業保健学実習として単位認定となる 事業所で働く従業員の生活実態を把握し、健康課題を考えることができる。健康課題と各種保健活動とのつながりを理解し、健康課題解決方法を考えることができる。健康課題の解決方法として、個人・家族・集団(職場)への支援活動を理解し、産業保健活動のあり方と産業看護職の役割を考えることができる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○		
	地域アセスメント演習	1. 地域アセスメントに必要なデータソースについて述べられる。 2. 地域アセスメントに必要なデータを抽出できる。 3. 対象集団の健康課題を述べられる。 4. 健康課題の優先順位をつけ、活動計画が策定できる。 5. 活動計画の評価の視点が述べられる。 6. 地域アセスメントの方法について述べられる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	公衆衛生看護管理・政策論	1. 公衆衛生看護管理の目的・方法について述べられる。 2. 対象者を支援するためのシステム化、政策形成の必要性に関する自分の意見を述べられる。 3. 健康危機における保健師の対応方法について述べられる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1. 保健医療福祉計画の策定背景と国・都道府県・市区町村の役割について述べられる。 2. 保健師の日常の実践活動から政策形成に至る過程について述べられる。 3. 政策形成における行政内での関係部局との調整、行政外の関係機関、住民との協議の進め方について述べられる。	○	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○	

看護保健学部 口腔保健学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
① キリスト教の愛の精神に基づき、生命の尊厳と人間尊重を考え、豊かで誠実な人間性を備えている。								
② 口腔保健学の専門的知識と実践能力を身につけ、主体的に問題を分析、解決する能力を持ち、口腔保健を通じて全身の健康支援が行える能力								
③ コミュニケーション能力を備え、医療・保健・福祉等の関連職種と連携し協働関係を構築できる社会性と協調性								
④ ヘルスプロモーションの理念を理解し、個人のみならず、地域医療に貢献でき、リーダーシップやヘルスマネージメント能力								
⑤ グローバル社会に対応できる行動力と、それを支える創造力・科学的探究心の基礎力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
	生物学・化学	①細胞の構造と機能を説明できる。②生命体を構成する物質を列挙し説明できる。③遺伝子の構造と機能を説明できる。④細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。⑤細胞の増殖と分化を説明できる。⑥生殖と発生を説明できる。⑦成長と老化を説明できる。⑧個体の維持について例をあげて説明できる。⑨遺伝のしくみを説明できる。		○			○	
				○	○			
	解剖学・組織発生学	①人体構造の生物学的意義を理解する。②人体を構成する細胞と組織の形態に関する知識を身につける。③各器官と器官系についての構造を概説できる。④組織・発生についての概要を理解する。		○			○	
			○	○	○			
	生理学	①人体の生命維持のための営みについて植物機能と動物機能に分けて理解する。②人体を構成する細胞の働きを説明できる。③細胞の集まりである各組織の働きを説明できる④各器官と器官系についてのそれぞれの働きを説明できる。		○			○	
			○	○	○			
	栄養と代謝	①生体の構成成分を説明できる。②三大栄養素の代謝を説明できる。③硬組織の構成成分とその代謝を説明できる。④唾液とプラークの構成成分とその代謝を説明できる。		○		○	○	
				○	○			
	口腔解剖学・口腔組織発生学	①頭頸部の基本的な構造を概説できる。②鰓弓についての概念を理解する。③歯の発生をステージを追って理解する。④歯の硬組織(象牙質・エナメル質・セメント質)の組織学的特徴を説明できる。⑤歯と歯周組織の構造を説明できる。⑥歯の形を立体的に理解し、図に書いて再現できる。⑦一本の歯を見たときに、それがどの部位の歯であるか説明できる		○		○		
			○	○	○			
	口腔生理学	①歯と口腔の感覚について概説できる。②下顎の運動について概説できる。③唾液の分泌機構と機能について概説できる。④摂食と嚥下の機序を概説できる。⑤言語音の産生機序を概説できる。		○			○	
				○	○			
	口腔構造機能演習	①歯の形態について図示、説明できる。②口腔組織の微細構造、細胞構築について説明できる。③皮膚感覚点の分布密度について説明できる。④基本味の味覚閾値について説明できる。⑥刺激による唾液分泌量の変化を説明できる。⑦疾患における細胞、組織の変化を正常な組織と比較しながら説明できる。		○			○	
				○	○	○		
	病理学・口腔病理学	①病気の原因と種類を理解する。②病気の成り立ちを理解する。③う蝕の成り立ちと特徴を理解する。④歯周病の成り立ちと特徴を理解する。⑤口腔粘膜、顎骨、唾液腺などの口腔の病気の成り立ちと特徴を理解する。		○			○	
				○	○			
	免疫・微生物学	微生物を通して遺伝、生と死などの生命現象、微生物と環境との関係、ウイルスから細菌、真菌を中心とする病原体がヒトに起こす感染症の種類と症状、治療の概要を理解する。また宿主-寄生体相互作用としての免疫学とアレルギー学の基本を理解し、感染防御と保健衛生管理が説明できる。		○			○	
				○	○			

専門基礎分野

薬理学・歯科薬理学	薬剤の有用な作用だけでなく、副作用も認識したうえで、各々の症例に対して適切な薬物療法がおこなわれる必要がある。また、薬物投与中の患者を診療する際にも、その薬理作用を理解している必要がある。本講義では、これらの要求に応えられるな基礎的知識を習得する。		○			○	
			○	○			
口腔衛生学Ⅰ	①歯・口腔の健康と全身の健康との関わりが説明できる。②歯・口腔の正常な形態や組織構造とその働きを説明できる。③う蝕の病因と予防法を説明できる。④歯周疾患の病因と予防法を説明できる。⑤歯科疾患の統計や指標を説明できる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○		
衛生学	①健康と予防医学の概念を理解する。②わが国の人口・保健統計の意義や指標の動向が説明できる。③環境と健康との関わりが理解できる。④感染症と生活習慣病の予防対策が説明できる。⑤疫学の役割と疫学分析に必要な統計学の知識を習得する。	○	○		○	○	
		○		○		○	○
公衆衛生学	①地域保健と公衆衛生の概念を理解する。②地域保健行政の関連法規と組織について説明できる。③地域保健活動の基本的な進め方を説明できる。④ライフステージごとの地域保健活動を説明できる。⑤ライフステージごとの地域歯科保健活動を説明できる。	○	○	○	○		
		○	○		○	○	
口腔衛生学Ⅱ	①個人や集団の口腔保健情報の扱いについて理解する②口腔衛生に関わりの深い国家統計を説明できる。③保健・医療であつかう個人情報の保護と倫理を説明できる。④口腔衛生学Ⅰで学んだ歯科疾患の指標を利用できる。⑤口腔衛生に関するデータの収集・集計および統計学的解析ができる。		○			○	
			○	○			
社会福祉論	社会福祉の理念や法体系、制度、サービス体系について理解するとともに口腔保健と社会福祉との関連について理解を深める。			○			
			○	○			
精神保健学	①精神保健学の全般的な知識の習得 ②自らのワーク・ライフ・バランスに注意を向け、メンタルヘルスの調和を図り、できることを実践する。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
学校保健	学校保健の構造、役割について学ぶことによって、養護教諭の専門性を捉えながら、学校内・外の関係機関との連携、協働して現代の健康課題を解決していくことを理解することができる。	○	○		○		
		○	○	○			
産業保健学	①産業保健の目的、動向、健康課題を理解する。 ②産業保健の推進体制と活動に関する基礎知識を習得する。 ③産業保健スタッフの役割と職務を理解する。			○	○		
		○	○	○	○	○	
健康教育論	①健康教育の目指すものを理解し、その重要性を認識する。②健康教育を支えてきた理論とモデルを理解する。③健康教育の展開方法について考えることができる。④効果的な健康教育のあり方について考えることができる。			○	○		
		○	○	○	○	○	
健康相談の理論及び方法	多様な健康課題を抱える子どもへの養護教諭が行う健康相談として、子どものSOSのサインを逃さず問題解決するために背景を理解し、実践できるよう習得する。またコミュニケーション力を高め、他職種と連携できるコーディネーター力を養う。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学	①公衆衛生看護の概念、機能、役割を理解する。 ②公衆衛生看護の特質を歴史的背景、行政組織、展開方法から理解する。			○	○		
		○	○	○	○	○	
養護概論	養護教諭の専門性のある職務内容を学ぶことによって、学校教育の学校保健の中核的役割を担うことができるよう実践できる力を身につける。また子どもの成長に向けて、問題意識をもって取り組むことができる力をつける。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○
発達段階と食育	子どもの各発達段階における食生活の現状や問題点を理解する。それぞれの段階に応じた食育活動を推進する力を身につける。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
学校保健と口腔保健学	①学校保健について、口腔保健学との関連から理解する。②歯科衛生士や養護教諭に求められる口腔保健学に立脚する知識や対処法を習得する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
介護予防	①介護予防の必要性を社会的、生理学的に理解する。②口腔の機能と全身との関係を理解する。③全身の機能と口腔の機能の低下を防ぐための方法を理解できる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
災害歯科保健医療	①歯科衛生士としての災害支援方法(歯科医療救護)について理解する。②各場面(避難所や仮設住宅棟)における被害者心理を理解し、対応方法を理解する。③災害時の口腔衛生に関する対応および継続支援を理解する。	○	○	○	○		
			○		○		○

	生活習慣改善と疾患予防	①疾病予防におけるコモン・リスクファクターアプローチの概念を説明できる。②口腔と全身の健康との関係を説明できる。③主な非感染性疾患とそのリスクを説明できる。④禁煙指導や食生活指導などの生活習慣改善の支援を説明できる。		○	○	○	○	
				○		○	○	
	口腔保健学概論	①歯科衛生や歯科衛生士について述べるができる。②歯科衛生士の歴史を理解することができる。③歯科衛生士の業務を理解し、説明ができる。④歯科衛生士の社旗的ニーズを理科することができる。⑤グループで課題に取り組むことができる。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	口腔保健学入門	①口腔保健学の概念を理解し、歯科衛生士の果たす役割を知る。②医療人としてのマナーを身に付け、身だしなみを整える。③口腔保健を管理するための基本を理解する。	○	○	○	○		
				○	○	○	○	
	臨床歯科医学概論	歯科衛生士に必須の歯科保健と歯科医療の大筋を把握し、医療者の義務と責任からライフステージ別の歯科保健と歯科医療の特質、歯科診療で行われる医療面接から検査、診察、治療と予後観察・管理まで、保健指導、予防処置と診療補助に至るまでの概要が説明できる。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	
	歯周病学	①歯周病の基礎的知識を説明する。②歯周病と全身疾患の関係を説明する。③歯周治療の概要を説明する。。④歯周病の検査を説明する。⑤歯周基本治療を説明し、口腔衛生指導を実施する。⑥歯周外科治療を説明する。⑦メインテナンスについて説明する。⑧歯周病とインプラント治療について説明する。		○			○	
				○	○			
	歯科保存学	歯を保存することの重要性を認識し、そのための検査・診断および治療方法について説明できる。		○			○	
				○	○			
	歯科補綴学	歯科補綴治療について理解し、歯科衛生士業務を実践できるようにします		○			○	
				○	○			
	口腔外科学	①歯科領域に発生する様々な疾患について診断ができるような基本的知識を身に付ける。②疾患について具体的に患者に説明できる。③臨床に際しては各々の疾患にそれぞれ対応できる十分な、歯科診療補助手順を身に付ける。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	小児・障害者歯科学	①胎児期から青少年期までの定型的な成長・発達を説明できる。②ヒトの各ライフステージでの口腔の正常像、口腔疾患とその予防・治療法ならびに口腔健康管理について説明できる。③成長発達期の口腔保健支援法や母子保健指導、個人および集団の口腔保健指導の概要を説明できる。④発達障害を含め、先天性および後天性障害の基礎知識と歯科治療、口腔保健指導に必要知識と技術を説明できる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	歯科矯正学	①歯、歯列、咬合の役割を説明できる。②年齢に応じた正常咬合を説明できる。③不正咬合の種類、原因と障害、矯正治療の目的を説明できる。④矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。⑤矯正装置の名称、構造、機能及び使用器具について説明できる。⑥矯正治療時の、適切な口腔内管理方法を説明できる。		○			○	
				○	○			
	高齢者歯科学	①加齢に伴う精神、心理、身体と社会的な変化について説明できる。②口腔機能の加齢変化、高齢者の口腔疾患の特徴、疾患の予防と健康管理が説明できる。③高齢者の口腔機能低下症について説明できる。④病院や歯科診療所、在宅での高齢者歯科診療で歯科衛生士に必要な知識と技術が説明できる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	全身疾患管理と臨床検査	①代謝・内分泌疾患、循環器疾患、がんなどの病態および口腔に現れる特徴を説明できる。②全身疾患をもつ患者の歯科診療上の注意点および口腔管理の方法を説明できる。③口腔領域の臨床検査の種類・方法および検査値のとらえ方について説明できる。④全身疾患の臨床検査の種類・方法および検査値のとらえ方について説明できる。		○	○	○		
				○	○	○	○	
	歯科予防処置論	①歯科予防処置の概念と法的位置づけを理解する。②歯科予防処置の対象者の把握方法と評価方法を説明できる。③う蝕と歯周病の原因、分類、進行過程、予防法を説明できる。④歯科予防処置時に起こりうる不快事項に対する予防法と適切な対応を説明できる。	○	○	○	○		
			○	○		○	○	
	う蝕予防処置	①う蝕予防処置法における歯科衛生士の役割を説明できる。②フッ化物の取り扱いができる。③PMTGの意義や操作方法を説明できる。④フッ化ジアンミン銀の取り扱い方法を説明できる。⑤小窩裂溝填塞の術式を説明できる。⑥う蝕リスクを評価するための情報収集ができる。⑦う蝕予防プログラムの検討ができる。		○	○	○	○	
				○	○	○	○	

専門分野

歯周病予防処置Ⅰ	①歯周組織の健康像を説明できる。②歯周組織検査ができる。③手用スケーラーの特徴を説明できる。④シックルタイプスケーラーの操作方法を説明できる。⑤シックルタイプスケーラーを適切に操作できる。⑥歯面研磨の操作方法を説明できる。		○	○	○		
		○	○	○	○	○	
歯周病予防処置Ⅱ	①キュレットタイプスケーラーの特徴を説明できる。②キュレットタイプスケーラーの操作方法を説明できる。③歯肉縁下歯石の探査方法を説明できる。④ルートプレーニングの定義を説明できる。⑤ルートプレーニングの操作方法を説明できる。⑥超音波スケーラーの特徴を説明できる。⑦超音波スケーラーの操作方法を説明できる。⑧エアスケーラーの特徴を説明できる。⑨エアスケーラーの操作方法を説明できる。		○	○	○		
		○	○	○	○	○	
歯周病予防処置Ⅲ	①歯周治療後のメインテナンスについて説明できる。②サポータティブペリオドンタルセラピーについて説明できる。③歯周病予防管理の必要性について説明できる。④歯科衛生士の業務記録を作成できる。⑤全身疾患と歯周病との関連について説明できる。⑥歯周病のリスクファクターに対する指導ができる。		○	○	○		
		○	○	○	○	○	
口腔保健指導論	①歯科保健指導の必要性、健康の概念について理解できる。②各ライフステージにおける情報把握の必要性およびその方法を概説できる。③歯科衛生士が行う口腔ケアについて理解する。④歯科衛生業務の実践には、コミュニケーション能力が重要性であることを理解する。⑤対象者に合わせた歯科保健指導を理解する。⑥グループで課題に取り組み、発表ができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
口腔衛生管理指導	①各ライフステージの特徴を理解し、対象者に合わせた歯科保健指導の必要性が理解できる。②対象者に合わせた、歯科衛生士過程に沿った口腔管理法が理解できる。③多職種連携の重症性を理解し、その在り方を理解できる。④高齢者や要介護高齢者、障がい者(児)を知り、対象者に合わせた口腔ケアができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
口腔機能管理指導	①摂食・嚥下に関わる理論及び構造が理解できる。②摂食・嚥下に関わる検査法、評価法が理解できる。③口腔リハビリテーションについて理解でき、対象者に合わせた口腔機能管理ができる。④要介護高齢者や障がい者(児)の口腔ケア方法及び口腔の管理について理解するとともに対象者合わせた口腔の管理計画の立案ができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
歯科健康教育	①各ライフステージにおける集団的特徴を理解し、保健・医療・福祉の各方面からの健康教育の方法を考えることができる。②各ライフステージにおける歯科保健の課題を理解し、その解決方法を考えることができる。③歯科健康教育におけるコミュニケーション能力を養うことができる。④グループにおいて、指導案や媒体作成、健康教育の一連の流れを実践することができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
口腔保健指導Ⅰ	①口腔保健学を学ぶ者として先ず、自分自身の口腔内を知る。②自らの健康を考え、いかに行動変容が重要か学ぶ。③口腔の機能やその構造の概要が理解できる。④自分自身の生活習慣を考え、行動変容を実践してみる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○		
口腔保健指導Ⅱ	①口腔保健学を学ぶ者として自分自身の口腔の健康管理ができる。②対象者の健康管理を行う上で、基礎知識に基づいた歯科保健指導ができる。③対象者の情報を的確に収集し、予防計画を立てることができる。④行動変容を促すコミュニケーション能力を養うことができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○		
歯科診療補助論	①歯科衛生士法における歯科診療の補助業務を理解し、補助と介助の違いを説明できる。②医療安全の定義および感染予防について述べるができる。③歯科機器・器材の特徴を説明できる。④歯科診療の流れおよび共同動作について説明できる。⑤主要な歯科材料の特徴を説明できる。		○			○	
		○	○	○	○	○	
歯科診療補助Ⅰ	①歯科診療補助に必要な器材の取り扱いに浮いて理解する。②歯科診療補助に必要な共同動作について理解する。③歯科診療補助の際に必要な患者対応について理解する。		○	○		○	
		○	○	○	○	○	○
歯科診療補助Ⅱ	①診療科目別の診療補助業務(器具・器材の取り扱いも含む)を修得する。②臨床の場に応じた診療補助方法および患者対応(技術と知識)を修得する。		○	○			
		○	○	○	○	○	○
歯科診療補助Ⅲ	①歯科診療補助Ⅰ・Ⅱで習得した知識と技術をもとに臨床実習において歯科診療の補助・介助ができる。②特別な配慮が必要な患者の配慮方法を修得する。③歯科衛生士と他職種との多職種連携について説明できる。		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○

歯科材料学	最新の歯科材料および生体材料の組成、構造、特性、ならびに臨床での有用性等を説明できる。		○	○		○	
		○	○	○	○	○	
歯科放射線学	歯科衛生士となるために必要な歯科放射線学について学び、歯科臨床で活かせるようになる		○			○	
			○	○			
麻酔学・感染予防学	①滅菌、消毒と洗浄の違い及びその技法が説明できる。②感染事故、針刺し事故の予防と対億ができる。③滅菌、消毒、洗浄の基本的技法が実行できる。④患者の全身状態評価法を習得し、治療中のモニタの目的、使用法、結果の評価法を身に付ける。⑤緊急時の対応におけるチーム医療の目的、歯科衛生士の役割りを理解し、実践できるようにする。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
看護学概論	歯科衛生士に必要と考えられる看護学的視点と看護基礎知識を習得する。	○		○	○	○	
		○	○	○	○	○	
看護技術演習	①看護援助に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。②養護教諭・歯科衛生士の立場として、学んだことを応用する。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
基礎実習	① 実習生としての自覚を持ち、望ましい態度で実習に取り組むことができる。② 歯科衛生士の役割について考えることができる。③ 歯科診療所の機能・役割を知ることができる。	○	○	○			
		○		○	○	○	
臨床臨床地実習Ⅰ（一般歯科診療所）	歯科診療所における臨床実習を通して、歯科診療の流れや歯科用器材、薬剤などの取り扱い方法などを修得するとともに、歯科衛生士が行う口腔疾患予防管理業務の理解を深め、地域口腔保健を担う歯科衛生士の役割を認識する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
臨床臨床地実習Ⅱ（専門歯科診療所）	①スタッフとの協働、連携した対象者へ対応ができる。②対象に応じて配慮した対応ができる。③医療安全管理に配慮した行動ができる。④患者からの要求や相談内容を判断し、適切な応接ができる。⑤ 対象者に応じた健康維持増進の保健管理指導ができる。⑥スタッフや患者と良好なコミュニケーションがとれる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
臨床臨床地実習Ⅲ（病院歯科）	①多職種連携、チーム医療が理解できる。②医療安全管理に配慮した行動ができる。③対象者の守秘義務を遵守できる。④資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断できる。⑤対象者に応じた保健管理指導ができる。⑥全身疾患を持つ患者に配慮した対応ができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
地域歯科保健実習Ⅰ（障害者・高齢者施設）	①障がいの種類と歯科的特徴を理解する。②対象に応じて配慮した対応ができる。③発達段階に応じた口腔保健推進支援を展開する。④高齢者施設の概要、機能と社会的な役割について学ぶ。⑤施設での高齢者の生活について理解し、コミュニケーション方法、食事介助、口腔のケアの実際を習得する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
地域歯科保健実習Ⅱ（保健施設）	①各地域の特性に応じた住民の生活のありようや健康課題を理解し、地域保健活動の実際を体験する。②ライフサイクルに合わせた地域歯科保健活動や、様々な健康課題に取り組む地域歯科保健活動を理解する。③地域住民とのパートナーシップの形成及び保健・福祉・医療の専門職の効果的な協働関係を学ぶ。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
地域歯科保健実習Ⅲ（教育機関）	①子どもの成長発達に応じた様々な健康課題を理解すると共に、健康課題に取り組む歯科保健活動を理解する。②対象者に応じた健康維持・増資の保健管理指導ができる。③集団を対象に歯科健康教育を実践できる。④児童・生徒のライフスキルを高める。6. 対象に応じて配慮した対応ができる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
臨床看護実習	①対象者（家族）の症状や生活における反応や病気に対する思いや抱えている問題に関心に向ける。②対象者の病態や臨床所見と対象者の反応や思いを関連付けて理解する。③コミュニケーションや日常生活援助等を通して、対象者の病いの体験を理解する。④医療者として基本的な態度（倫理的態度）を身につける。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
総合演習	①人体の構造と機能、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ち及び回復過程の促進について総合的に理解する。②歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みについて総合的に理解する。③臨床歯科医学について総合的に理解する。④歯科衛生士の3大業務（歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助）について総合的に理解する。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
口腔保健研究演習	①関心あるテーマに関連した文献検索ができる。②文献をクリティークし、自己の研究テーマを明確化できる。③研究テーマについて文献研究を行い、報告書が書ける。④研究内容、結果について他者に説明できる。		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○